2023年度　事業計画

社会福祉法人　平成記念会

目次

法人全体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
エルベ（ケアハウス）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
淡路エルベ（ケアハウス）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
東浦エルベ（ケアハウス）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
山口エルベ（ケアハウス）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
ヴィラ勝占（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
グループホーム勝占・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
ヴィラ羽ノ浦（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
平成デイサービスセンター羽ノ浦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
ヴィラ本郷（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
グループホーム本郷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
ヴィラ都筑（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
平成デイサービスセンター都筑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
ヴィラ町田（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
平成デイサービスセンター町田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
ヴィラ神奈川（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
平成デイサービスセンター神奈川・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
ケアホーム板橋（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
グループホーム板橋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）・・・・・・・・・・・・・・・57
大谷口地域包括センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
ケアホーム葛飾（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
ケアホーム住吉（特養）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
グループホーム渭北・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
平成デイサービスセンター渭北・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
グループホーム八万・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
八万小規模多機能センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
那賀町鷲敷デイサービスセンター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
平成デイサービスセンター平田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
平成在宅介護支援センター平田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
平成デイサービスセンター黒磯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
平成ホームヘルパーステーション黒磯・・・・・・・・・・・・・・・・・87
グループホーム鳴門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
平成デイサービスセンター鳴門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

鳴門小規模多機能センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
平成デイサービスセンター徳島・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
メディケアハウス平成（有料老人ホーム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
訪問ステーションてとてと小平（訪問看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
ケアプランセンター　てとてと小平（居宅介護支援事業）・・・・・・・・・・ 107
訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
ケアプランセンター　てとてと徳島（居宅介護支援事業）・・・・・・・・・・ 112
OUCHI　CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）・・・・・・・・・・・・・・・ 114
OUCHI　HOME（共同生活援助）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・118
西新井まちの相談室（特定相談支援事業）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
岩国市岩国第三地域包括支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
サポートハウスココロネ住吉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

１．2023年度　事業計画の概要

- 経営
  - 稼働率の維持、改善
    - 入所系サービスは99%を必達目標
      - 協力医療機関との連携を図りながら、日常的な健康管理を徹底し、入院等による空床を最小限に抑える。
    - 通所系は80%を必達目標
      - コロナ禍で外出の機会が少なくなっている方が、再び外出できるきっかけとなれるよう、安心できるサービスの提供を行う。
    - 訪問系サービスは職員1人あたり1日5名以上の提供を目標
      - 外出をせず、在宅での生活が長期化している方の健康管理、また外部とのつながりをもてるように積極的に訪問サービスを実施する。
    - 対面等での営業活動の実施
      - コロナ禍で減少してしまった対面での営業活動の再開
  - 経営分析と戦略策定
    - 毎月の収支・人員配置等の管理を行い、収益の安定を目指す。
    - 事業所単位での収支分析結果等のフィードバックを活用し、各事業所に合わせたアドバイスを的確に行う。
  - 法人、グループ内での連携強化
    - 各事業所と密な連携を取り、法令遵守（人員基準・加算算定に関する要件等）に関する相談・研修等を個別に実施する。
    - 感染症や災害発生時においても、必要な介護サービスが提供できるよう各事業所のBCPの内容確認及び情報共有を行う。
  - 地域貢献活動の充実
    - 感染対策は行いつつ、今まで実施出来なかった地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に行う。
    - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく。

- サービスの質
    - 利用者の健康と安全を最優先に考えた介護サービスを提供できるよう、職員１人１人のスキルアップ及び法人全体での体制作りを行う。
    - 教育専門担当職員の配置、ラダーの確立を行う。
    - 多職種連携の強化と協働ができる体制を推進し利用者の重度化防止の取組を行う。
    - 科学的介護情報システム（LIFE）を活用したPDCAサイクルにより、質の高いサービスを実施する体制を構築するとともに、更なる向上に努める。

- 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
        - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
        - Zoom・Google Meet を活用した外部研修への積極的参加
        - 外国人職員の受け入れ後の対応（EPA、技能実習生、特定技能実習生）
        - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
        - ハラスメント対策の強化
        - 施設管理者等へのフォローアップ体制及びメンタルヘルス対策の強化
    - 福利厚生の充実、働きやすい職場環境の提供
        - 勤怠管理の徹底。残業時間の削減
        - 適切な人事評価・教育や研修の充実
        - 各休暇制度の取得の充実

- 新規事業、改修工事
    - 特定相談援助事業
        - 開設時期：2023年6月開設予定
        - 事業内容
            - 計画相談支援
                - サービス利用支援
                - 障害福祉サービスの利用までを支援するサービス。サービスの利用申請に必要な「サービス等利用計画案」の作成や、サービスを提供する事業者との連絡調整などを実施
                - 継続サービス利用支援
                - 現在、実施中の障害福祉サービスの内容を見直す支援。必要に応じて関係機関を集めた会議の実施、サービス利用の更新、サービス等利用計画の見直しに関する調整を実施。

２．運営目標（稼働率、利用者数）

高齢者事業

- 特養（稼働率）　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
ヴィラ勝占（入所）【50名] （ｼｮｰﾄ）【10名]	99.5% 96.0%	99.5%（±0%） 99.8%（＋3.8%）
ヴィラ羽ノ浦（入所）【50名] （ｼｮｰﾄ）【10名]	95.7% 81.5%	100.0%（＋4.3%） 96.0%（＋14.5%）
ヴィラ本郷（入所）【30名] （ｼｮｰﾄ）【10名]	88.7% 84.0%	98.0%（＋9.3%） 90.0%（＋6.0%）
ヴィラ都筑（入所）【110名] （ｼｮｰﾄ）【 10名]	98.5% 74.9%	100%（＋1.5%） 90.0%（＋15.1%）
ヴィラ町田（入所）【200名] （ｼｮｰﾄ）【 20名]	98.3% 88.3%	99.0%（＋0.7%） 98.0%（＋9.7%）
ヴィラ神奈川（入所）【140名] （ｼｮｰﾄ）【 20名]	96.3% 102.3%	99.0%（＋2.7%） 102.5%（＋0.2%）
ケアホーム板橋（入所）【200名] （ｼｮｰﾄ）【20名]	93.6% 66.7%	98.3%（＋4.7%） 92.0%（＋25.3%）
ケアホーム葛飾（入所）【120名] （ｼｮｰﾄ）【18名]	96.0% 99.1%	98.0%（＋2.0%） 100.0%（＋0.9%）
ケアホーム住吉（入所）【100名] （ｼｮｰﾄ）【20名]	97.1% 65.6%	100%（＋2.9%） 90.0%（＋24.4%）

- グループホーム（稼働率）　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
グループホーム勝占【18名]	99.0%	100%（＋1.0%）
グループホーム本郷【18名]	91.2%	97.0%（＋5.8%）
グループホーム板橋【18名]	98.1%	99.0%（＋0.9%）
グループホーム渭北【18名]	95.4%	100.0%（＋4.6%）
グループホーム八万【18名]	96.2%	100.0%（＋3.8%）
グループホーム鳴門【18名]	99.3%	99.5%（＋0.2%）

- ケアハウス（稼働率）　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
ケアハウスエルベ（一般）【70名】	95.3%	97.0%（＋1.7%）
ケアハウス淡路エルベ（一般）【40名】 （特定　【30名】	98.9% 93.8%	100.0%（＋1.1%） 96.0%（＋2.2%）
ケアハウス東浦エルベ（一般）【50名】 （特定）【30名】	99.9% 93.6%	100%（＋0.1%） 95.0%（＋1.4%）
ケアハウス山口エルベ（一般＋特定）【50名】	98.7%	98.9%（＋0.2%）
ケアハウス板橋（一般）【20名】	97.7%	99.7%（＋2.0%）

- 通所介護（稼働率）　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
平成デイサービスセンター羽ノ浦【20名】	57.0%	75.0%（＋18.0%）
平成デイサービスセンター都筑【22名】	76.1%	90.0%（＋13.9%）
平成デイサービスセンター町田【20名】	94.8%	95.0%（＋0.2%）
平成デイサービスセンター神奈川【20名】	80.1%	90.0%（＋9.9%）
平成デイサービスセンター渭北【23名】	75.0%	85.0%（＋10.0%）
那賀町鷲敷デイサービスセンター【35名】	62.7%	70.6%（＋7.9%）
平成デイサービスセンター平田【50名】	91.3%	93.6%（＋2.3%）
平成デイサービスセンター黒磯【35名】	71.0%	89.0%（＋18.0%）
平成デイサービスセンター鳴門【25名】	79.3%	85.0%（＋5.7%）
平成デイサービスセンター徳島【25名】	82.3%	86.0%（＋3.7%）

- 訪問看護（延べ人数）　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
訪問ステーションてとてと東大阪	14,912名	13,404名（▲1,508名）
訪問ステーションてとてと小平	9,101名	10,766名（＋1,665名）
訪問ステーションてとてと徳島	18,163名	19,230名（＋1,067名）

- 訪問介護（延べ人数）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
平成ホームヘルパーステーション黒磯	3,812名	4,996名（＋1,184名）

- 小規模（登録者数）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
八万小規模多機能センター【29名】	26名	27名（＋1名）
鳴門小規模多機能センター【29名】	16名	24名（＋8名）

- 居宅（ケアプラン数）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
平成在宅介護支援センター平田	1,653件	1,683件（＋30件）
ケアプランセンター　てとてと小平	855名	926名（＋71名）
ケアプランセンター　てとてと徳島	800名	846名（＋46名）

- 有料老人ホーム（稼働率）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
メディケアハウス平成　【20名】	99.5%	99.5%（±0%）

障がい者事業

- 医療型障害児入所施設（稼働率）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
サポートハウスココロネ住吉【100床】	19.6%	49.1%（＋29.5%）

- 就労継続支援B型（稼働率）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
OUCHI CAFE KITCHEN【20名】	82.0%	90.0%（＋8.0%）

- 共同生活援助（稼働率）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
OUCHI HOME【14名】	75.0%	100.0%（＋25.0%）

- 生活介護（利用者延数）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
ココロネリビング【20名】	575名	1,458名（＋883名）

- 放課後デイサービス（利用者延数）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
ココロネクラブ【5名】	253名	650名（＋397名）

- 計画相談支援（支援者数/月）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
西新井まちの相談室	ー	35名

その他事業

- 地域包括支援センター（ケアプラン数）　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
大谷口地域包括支援センター	3,600名	3,650名(＋50名）
岩国市岩国第三地域包括支援センター	1,870名	1,880名（＋10名）

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持
      - 稼働率97%を必達目標とする。
      - 併設施設との連携強化。
      - 広報活動に力を入れ、稼働率の向上を図る。
    - 経営分析と戦略策定
      - 電気やガスの使用量を毎月把握し、節約する。
      - 消耗品の使用方法を見直し、無駄を無くす。
    - 地域貢献活動の充実
      - 地域行事へ参加する。
      - 消防署や消防団、地域住民参加の防災訓練を企画する。
  - サービスの質
    - 感染対策を徹底し、安心して生活していただく。
    - 新規の利用者に積極的に話しかけ交流を図る。
    - クラブ活動の再開を企画する。（健康体操、書道クラブ）
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - オンライン研修や外部研修への積極的な参加。
      - e－ラーニングを活用した研修の実施。
    - マニュアル類の整備
      - 消防計画の見直し。（大規模災害）
    - 職場環境の整備
      - 共有スペースの清掃と整理。
      - 声かけや巡回による感染対策の徹底。
      - 業務内容を見直し無駄を省く。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - 一般

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	95.3%	97.0%（＋1.7%）
単価（人・日）	4,067円	4,053円（▲14円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 地域包括支援センターやお世話センター、居宅介護支援事業所へ積極的に広報活動し、入居希望者を募る。
    - 入居希望者の状況を把握し、退去が決定した場合は速やかに新規の入居対応を行う。
    - 入居者の体調管理を徹底し、体調変化に目を配る。
  - その他取り組み
    - 感染症への対応
      - 入居者と職員の健康管理の継続。
      - 体調不良者が出た場合は、協力医療機関に連絡し検査を実施。
      - 外出や面会の機会が増えるため、入居者への感染対策に対する定期的な声掛けを行う。
    - 大規模災害への対応
      - 装備品リストの見直し。
      - 必要物資の保管。（帰宅困難者用）

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般40名　特定施設30名】

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名　特定施設-30名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - ケアハウス稼働率100%、特定施設96%以上を目標
    - 空床期間の短縮と定期的に営業を実施し、新規入居者の確保に努める。
  - サービスの質
    - レクリエーションの充実を図り、認知機能低下予防、ADL維持向上を目的とした余暇活動を実施する。
    - 接遇向上に継続して取り組む。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 資格を未取得職員が介護技術、知識向上を目的とした研修会に参加できるよう支援し、資格取得につなげる。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - 一般

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	98.9%	100%（＋1.1%）
単価（人・日）	3,805円	3,847円（＋42円）

  - 特定施設

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	93.8%	96.0%（＋2.2%）
平均要介護度	1.25	1.3（＋0.05）
単価（人・日）	5,928円	6,066円（＋138円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - ケアハウス稼働率100%維持を目指し特定施設96%以上を維持するため、空きが出れば、すぐ入居して頂けるように新規入居者の確保、待機者への連絡調整をしっかりと行う。
    - 入院した場合、退院、退居の方向性確認を早期に行う。

- 平均要介護度
  - 状態変化に応じ区分変更の検討を行い、本人、ご家族様へご提案する。
  - 特定施設の要支援者を一般入居へ変更していく等、サービス移行できる方の検討を行う。
- 加算について
  - 生活機能向上連携加算I
    - 計画的に機能訓練を実施する。また運動を習慣づけていただけるように支援する。併設病院リハビリスタッフとの連携を密に行う。
  - 医療機関連携加算
    - 健康状態把握に努め、協力医療機関に詳細な情報提供を行う。
  - 口腔・栄養スクリーニング加算
    - 口腔機能の低下予防の異常の早期発見、食事摂取量、体重の減少等の状態把握に努め、情報共有を行い、状態に応じた支援を行う。
    - 歯科受診や往診の検討を積極的に行う。
  - 科学的介護推進体制加算
    - 利用者の状態管理徹底
  - ADL維持等加算
    - BIを適切に評価できるように、必要に応じて研修を受ける。
    - BIを適切に評価し、LIFEへの提出を行う。
  - サービス提供体制加算I(介護福祉士割合70%以上)
    - 現在71%の為、年間を通して維持できるよう、必要に応じて介護福祉士の補充等の検討を行う。
    - 資格を有していない職員の資格取得の為、研修への参加等で支援する。
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定
- その他取り組み
  - 外出支援
    - 感染対策を実施したうえで外出の機会確保を検討。
    - コープ、コンビニやドラッグストアの無料配達の活用を支援し、買い物ができるようにする。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名　特定施設-30名】

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名　特定施設-30名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率ケアハウス100%、特定施設95%を目標
    - 退居した次の日に新規入居ができるように、待機者をコントロールする
  - サービスの質
    - 余暇活動の支援のため、ハンドベルクラブの立ち上げ
      - 歌唱クラブがコロナの影響で消滅してしまった為、それに代わる音楽に関連したクラブを立ち上げ、感染症対策を実施した上で進めていく
    - マイナンバーカードの活用
      - 申請方法や利用方法について入居者へ案内配布
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 働きやすい職場環境の整備
      - 休憩時間を確保し、水分補給できるようにする

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - 一般

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	99.9%	100.0%（＋0.1%）
単価（人・日）	3,443円	3,500円（＋57円）

  - 特定施設

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	93.6%	95.0%（＋1.4%）
平均要介護度	1.5	1.7（＋0.2）
単価（人・日）	6,468円	6,550円（＋82円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 退居した後ですぐに新入居できるように待機者をコントロールし、稼働率100%を維持する
    - 身体状況に応じた介護保険施設の紹介

- 平均要介護度
  - 変更申請の必要性についてご本人・ご家族へ説明と同意
- 加算について
  - 生活機能向上連携加算I・II
    - リハビリ職員から助言を受け、適切な福祉用具を選択、安全に施設内を移動できるようにする
    - 筋力測定実施し、筋力量について周知する
  - 医療機関連携加算
    - 毎日のバイタル測定により、本人の基準値を把握
    - 異常時の早期発見
  - 口腔・栄養スクリーニング加算
    - 嚥下状態に応じた食事形態を選択し、誤嚥防止
    - 間食等の摂取量の管理
  - サービス提供体制強化加算I（介護福祉士70%以上）
    - 介護福祉士の割合70%を切らないように維持。特定職員と一般職員の管理を徹底。介護福祉士資格取得に向けて実務者研修の案内を告知し受験を推進。
  - 科学的介護推進体制加算
    - LIFEからのフィードバックを参考に施設サービス計画書を見直す
  - ADL維持等加算II
    - 現在のADLが維持できるように個別訓練等の実施、及び評価
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定
- その他取り組み
  - コンビニエンスストア訪問販売
    - 訪問販売車を活用し、外出困難な方へ生活用品や食品が自由に購入できるように支援する

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：一般/特定-50名】

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：一般/特定-50名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 医療機関や介護保険施設等との連携を積極的かつ広範に行い、入居希望者を確保して稼働率の維持向上を図る。
  - サービスの質
    - 感染対策を十分に講じたうえで、入居者と共に職員も楽しめるようなイベントを立案・開催し、施設生活に対する満足度の向上を目指す。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 施設内勉強会やeラーニングの活用、外部の研修への積極的な参加を行い、職員のスキルアップや意識の向上を図る。
    - 働きやすく、意欲をもって業務に取り組むことができる職場づくりを進める。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - 一般＋特定

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	全体：98.7% うち一般：　0% うち特定：98.7%	全体：98.9%(+0.2%) うち一般：　　0%(±0%) うち特定：98.9%(+0.2%)
平均要介護度（特定）	1.58	1.63（+0.05）
単価（人・日）	一般：0円 特定：9,718円	一般：　　ー 特定：9,950円（+232円）

※全ての入居者が介護認定を受け、一般入居者がゼロのため

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 入居者の体調管理を徹底し、入院等の長期離脱を予防する。
    - 入院等により、入居者の退居が想定される場合は速やかに新規入居対応を行い、空床日数減に努める。
    - 医療機関からの退院調整を速やかに行い、体調安定後は早期に再入居できるよう対応する。
    - 新規利用者獲得に向け、医療機関や居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等と積極的に連携し、入居希望者を確保する。

- 平均要介護度
  - 入居者個々に合わせた運動やレクリエーションの実施によるQOLの維持向上、職員のスキルアップによる対応能力の向上を図り、要介護度が重くなってもケアハウスでの生活が継続できるよう支援する。
- 加算について
  - 個別機能訓練加算（I・II）：機能訓練指導員の退職により2023年2月より算定休止中。職員の確保ができ次第、算定再開の予定。
  - 医療機関連携加算：今後も継続算定。
  - 口腔・栄養スクリーニング加算（I）：今後も継続算定。
  - 退院・退所時連携加算：今後も継続算定。
  - サービス提供体制強化加算（III）：今後も継続算定。昨年同様に介護福祉士比率の向上を図り、区分アップを目指す。
  - 科学的介護推進体制加算：今後も継続算定。
  - ADL維持等加算：2022年7月に届出し、現在評価対象期間中。2023年7月より算定開始の予定。
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定
- その他取り組み
  - 入居者の生活に対する満足度向上のための取り組み
    - エルベ喫茶：月に1度、入居者に軽食を提供する。
    - エルベ農園：季節に応じた野菜の栽培・収穫。
    - 昨年設置したくつろぎスペースの活用とイベント内容の充実。
    - 感染防止に配慮した外出行事の企画・開催。
    - 自身で品物の選択・購入の機会が持てるように移動販売を継続。
  - 委員会活動
    - 事故防止委員会
    - 身体拘束廃止委員会
    - 虐待防止委員会
    - 褥瘡防止委員会
    - 衛生・感染防止委員会
    - 給食委員会
    - 業務・処遇検討委員会

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

グループホーム勝占【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持
      - 入所系サービス99.5%、ショートは99.8%を必達目標とする。
      - 退所後の受け入れについては、速やかに入居していただけるよう敷地内の地域医療連携室、近隣施設、事業所との連携を図る。
    - 経営分析と戦略策定
      - 無駄な光熱費の削減を図る。
      - 医療的ケアが必要な方や他施設での受け入れが困難な方でも積極的に受け入れる。
    - 地域貢献活動の充実
      - 地域に開かれた施設として、地域住民との交流や老人福祉に貢献していく。
      - 大規模災害を想定した地域との防災訓練を積極的に実施する。
      - 施設周辺の用水清掃活動を実施する。
  - サービスの質
    - 接遇面の向上
      - 利用者一人一人のニーズと意志を尊重し、観察力を怠らず可能性を追及しながら、生活の質の向上に努める。
      - 充実したレクリエーション活動の実施。
      - 家族との交流において利用者様の精神的なより所となるよう、良好な援助に努める。
    - サービスに適した人材育成。
      - WEBでの研修会に各職種ごとに参加。
      - 介護未経験者への新人研修の充実と認知症介護基礎研修の受講。
      - 介護福祉士資格取得に向けての研修会へ参加。
      - 喀痰吸引研修への積極的な参加。
    - 職場環境の整備
      - 業務内容の見直しと改善を図る。
      - 職員間のコミュニケーションの充実を図る。
      - メンタルサポートを実施していく。
      - 有給休暇取得率を上げる。
      - 職員との面談を増やし、働きやすい環境を構築していく。

        - 全館LED化への変更。
        - 健康管理
            - 利用者様の身体的、精神的実態を的確に把握し、敷地内協力病院と常に連絡をとり疾病予防に努める。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
    - 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	99.5%	99.5%（±0%）
平均要介護度	4.1	4.1（±0）
単価（人・日）	14,786円	14,877円（＋91円）

    - ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	96.0%	99.8%(＋3.8%)
平均要介護度	4.0	4.0（±0）
単価（人・日）	13,596円	14,304円（＋708円）

- 実現するための取り組み
    - 稼働率
        - 待機者を常時3人確保。
        - 協力医療機関からの情報提供、連携を図る。
        - 居宅介護支援事業所との連携を図る。
    - 平均要介護度
        - 要介護度の見直しを定期的に行う。
        - より施設での生活が必要になる介護度の高い方の積極的な受け入れを行う。
    - 加算について
        - 短期入所生活介護において、サービス提供体制強化加算I算定の継続。
        - ADL維持加算の算定に向けて積極的に取り組んでいく。
    - その他取り組み
        - 感染対策を徹底しながら、少人数でのレクリエーションを充実させる。
        - 仕事に目標を掲げ、モチベーションアップに繋げる。
        - 南海トラフ地震を想定した防災への備え。

グループホーム勝占【定員：18名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持・向上
      - 年間を通して稼働率100%を目標とする。
      - 協力病院や併設施設との連携を強化し、入退居をスムーズに行う。
    - 地域密着型サービスとしての地域活動
      - 地域の方に参加していただけるイベントの企画。
      - 地域のお地蔵様の前掛け作りと交換の継続。
      - 地域住民参加型の防災避難訓練の実施。

  - サービスの質
    - 入居者満足の追及
      - 本人本位の生活が送れるよう個別ケアの徹底。
      - 季節の行事や日常的な余暇活動の充実。
      - 栄養バランスの取れた美味しく食べやすい食事の提供。
      - 感染症や健康への不安なく生活できるよう、感染対策の徹底と体調管理。
      - 入居者や家族からの相談や苦情への迅速かつ丁寧な対応。
    - 職員満足の追及
      - 日々の業務に対するフィードバック。
      - ワークライフバランスの充実。
      - 有給休暇取得率のアップ。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修や勉強会の充実
      - WEB研修やe-ラーニングの積極的な活用。
      - グループホーム内での勉強会の充実。
      - 無資格者への介護福祉士資格取得支援。
      - 同じ職員に偏ることなく交代で法人内外の研修会や勉強会に参加。
    - 長期的に働きやすい職場環境の整備
      - 連続休暇や有給休暇を取得しやすい雰囲気作りや環境の整備。
      - 気軽に話ができ相談し合える良好な人間関係の構築。
      - 職員の意見を反映し業務の見直しと適正化を図る。
      - 職員同士のコミュニケーションを活性化し定着率を向上させる。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	99.0%	100.0%（＋1.0%）
平均要介護度	2.8	2.8（±0）
単価（人・日）	12,418円	12,532円（＋114円）

  - 実現するための取り組み
    - 稼働率
      - 常日頃より協力医療機関のMSWや老健の支援相談員、特養の施設長及びケアマネ等と連携を密に取り、入居希望者や入居検討中の方の把握と情報収集を行う。
      - 待機者を確保し、退居が生じた場合にすぐ次の受け入れができる体制を整える。
    - 平均要介護度
      - 在宅で生活が困難である要介護度が高い方を積極的に受け入れる。
      - 状態に応じて要介護度を見直し区分変更を検討する。
    - 加算について
      - 栄養管理体制加算の算定継続
        - 協力病院の管理栄養士協力の下、継続して算定する。毎月の管理栄養士のミールラウンドと月1回の職員への助言や勉強会を通して職員の食事に対する知識や意識を高め、より良い食事の提供に努める。
      - 口腔・栄養スクリーニング加算の算定継続
        - 算定要件が入居時と以降6ヶ月ごとである為、算定月を把握し取りこぼしのないよう算定する。
      - サービス提供体制強化加算（I）の算定継続
        - 来年度も（I）を算定予定であるが、無資格者の入職や勤続10年以上の職員の退職等に伴い、算定要件を満たさなくなる可能性がある為、介護福祉士資格取得に向けバックアップを行うと共に、長期的に働きやすい職場環境を整える。

- その他取り組み
  - 余暇活動の充実
    入居者の希望を取り入れながら、レクリエーションや脳トレの充実を図る。また、コロナ禍で外出の機会が失われていた為、戸外に目を向けた行事を企画する。
  - 家族交流
    対面での面会に加え、県外在住の家族とはオンライン面会を積極的に活用し、入居者と家族との関わりを持ち続けることができるようにする。また、状況に応じて家族会の再開を検討する。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善
      - 特養は100%必達目標とする。
      - ショートステイは96%必達目標とする。
      - 新規入所・利用者増を図るため、病院・老健・居宅介護支援事業所との連携及び営業を強化（月間営業目標40件と）する。
    - 経営分析と戦略策定
      - 稼働による収入、人件費や購入・修繕による支出状況を常に経理部門と共有することで安定した収支対策を実行する。
      - 毎月の収支を施設長はじめ各所属長も把握する。
      - 値上がりする公共料金や物価高の影響を、現場職員も把握できる仕組みをつくり、経営に対する意識を持つ。
    - 地域貢献活動の充実
      - 新型コロナウィルス感染症の感染症法上の位置付けが５類へ移行することを機に休止していた地域との交流や、介護予防教室（羽ノ浦健康クラブ）を再開する。
      - 学校関係者・近隣住民・ボランティアへ、地域活動への参加・慰問の呼び掛けをする。
      - 未曽有の災害に備え、市防災担当課や地域住民、近隣施設と共同で災害発生時に適切な判断の下、全員がスムーズに、かつ安全に避難活動できる体制を構築する。
    - 看取り対応の充実
      - 入所部門では、生活の場としての機能を保ちつつ、近年増加傾向にある高齢者が最期を迎える看取りの場となり得る体制づくりや、知識・技術の向上、意識改革を進める。
      - 通所及び短期入所の在宅部門においても、地域包括ケアシステムを担う一施設として、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようサービス提供に努める。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 介護福祉士国家試験受験要件を満たす職員の資格取得支援及び国家試験対策講座への参加を促進する。

        - 介護支援専門員受験要件を満たしている職員への受験呼び掛け及び対策講座への参加を促進する。
        - 無資格者に対して認知症介護基礎研修の受講を促す。
        - 2号技能実習生の3号移行へ向け、N3試験及び上級試験合格を必達目標とする支援を行う。
        - グループ全体で取り組むキャリア段位制度を更に推進する。
        - 職員育成のための教育体制を構築する。
        - 介護職員の喀痰吸引研修及び看護職員の特定看護師研修の受講を促進し、医療必要度の高い入所者・利用者の受入れ促進を図る。
        - 看取りの施設として、あらゆる状態・状況の入所者を受け入れることができるよう職員の対応力、倫理観の向上に努める。
        - 病院連携室との入退所調整、居宅事業所への営業や新規利用者家族への対応を担う相談員業務従事者を育成する。
        - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系を確立する。
    - 有事に備えた事業継続計画（BCP）の策定並びに訓練の実施。
        - あらゆる災害の対応マニュアル類を見直し、職員への周知を図る。
        - 感染症対策備品も含めて備蓄を整理し、有事の際に慌てないよう職員へ周知する。
        - 新型コロナ感染症クラスターの経験を活かし、平時・有事の対応を具現化する。
    - 業務量の適切な管理と何事も相談できる風通しの良い職場環境を築く。

  - 改修工事
    - ナースコールシステム入替工事を着工する。2023年度中の入替を目指す。
    - 入所者及び利用者の重度化に伴い現在使用している機械浴を寝台浴へ入替え、一階一般浴をバスラックを使用したリフト浴へ改装する。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	95.7%	100.0%（＋4.3%）
平均要介護度	4.2	4.2（±0）
単価（人・日）	12,493円	12,696円（＋203円）

- ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	81.5%	96.0%（＋14.5%）
平均要介護度	3.1	2.8（▲0.3）
単価（人・日）	10,139円	10,048円（▲91円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 近隣病院との連携（入所者の体調不良等による退所後の空床期間短縮）
    - 入所者の体調管理（入所継続のための感染・安全・環境対策の徹底）
    - 併設デイサービス利用者家族へのレスパイト目的でのショート利用の勧誘
    - 近隣居宅介護支援事業所への営業（在宅部門の新規利用者獲得）
  - 平均要介護度
    - 近隣病院との連携（重度要介護者、在宅復帰困難者の受け入れ調整）
    - 在宅生活継続困難者の受入れ
  - 加算について
    - 日常生活継続支援加算Iの算定
    - 看護体制加算I・IIの算定
    - 夜勤職員配置加算Iの算定
    - 栄養マネジメント強化体制加算の算定
    - 口腔衛生管理加算IIの算定
    - 褥瘡マネジメント加算IIの算定
    - 排せつ支援加算Iの算定
    - 安全対策体制加算の算定
    - 科学的介護推進体制加算IIの算定
    - 経口維持加算I・IIの算定
    - 介護職員処遇改善加算Iの算定
    - 介護職員等特定処遇改善加算Iの算定
    - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定
  - その他取り組み
    - 広報誌、事業所アピールチラシの作成及び配布による営業強化
    - ホームページを活用した情報発信、行事や取り組み等の広報の充実

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の改善
      - 稼働率75%を必達目標とする。
      - 居宅介護支援事業所のみならず、地域包括支援センター、個人医院との連携を強化する。
      - 近隣の病院、診療所、老健への営業により、退院者・在宅復帰者を新規利用へ繋ぐ。
      - 介護予防事業（ヴィラ羽ノ浦健康クラブ）の再開により将来的な利用者獲得を図る。
      - 地域の老人クラブ（阿南市セニヤクラブ）等への営業及び利用案内を行う。
  - サービスの質
    - 地域包括ケアシステムの一端を担う事業所としての自覚を持ち、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、サービス提供に努める。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 介護福祉士国家試験受験要件を満たす職員の資格取得を支援し、国家試験対策講座への参加時間を確保する。
      - 無資格者へ認知症介護基礎研修の受講機会を確保する。
      - 新たな管理者、役職者となれる人材を育成する。
      - 併設特養と一体的に職員教育体制を構築する。
- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	57.0%	75.0%（＋18.0%）
平均要介護度	2.2	2.5（＋0.3）
単価（人・日）	8,151円	8,962円（＋811円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 近隣居宅介護支援事業所との連携及び営業により新規利用者獲得
    - 併設短期入所利用を活用した在宅生活継続（家族）支援
  - 平均要介護度
    - 重度要介護者の利用促進（新規及び利用日数増）

- 加算について
  - 入浴介助加算I・IIの算定
  - サービス提供体制強化加算IIIの算定
  - 個別機能訓練加算I・IIの算定
  - 科学的介護推進体制加算IIの算定
  - 介護職員処遇改善加算Iの算定
  - 介護職員等特定処遇改善加算Iの算定
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定
- その他取り組み
  - 広報誌、事業所アピールチラシの作成及び配布による営業強化
  - ホームページを活用した情報発信、行事や取り組み等の広報の充実
  - コロナ禍で中止していた外出や集団行事の企画・開催及び介護予防教室（ヴィラ羽ノ浦健康クラブ）の再開

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名　ショート-10名】

グループホーム本郷【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名　ショート-10名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善
      - 入所サービスは98.0%を目標とする。
      - ショートステイは90.0%を目標とする。
      - 協力病院との入退院体制を見直し、スムーズな入退所の仕組みを構築する。
    - 経営分析と戦略策定
      - 毎月の収支状況の確認を行い、改善策などの検討会議を定期的に開催する。
      - 収支状況や無駄な経費等は職員全体に共有し周知を図り、施設全体の経営意識を高める。
    - 地域貢献活動の充実
      - コロナ禍の規制緩和にともない、地域貢献活動を再開する。
      - 岩国市公益活動推進協議会や周辺関係機関と協力し、地域貢献活動を推進する。
      - 岩国岩国市東部地域のフードバンクステーション設立に向けて、他法人・施設と協力して話をすすめる。
      - 他、玖北地域の諸問題について、近隣法人・施設と解決に向けて協力・検討を行う。
  - サービスの質
    - 山口エリアでの介護技術研修を充実させ、職員の育成およびグループ基準の介護方法の浸透を図る。
    - OJTを通じチームケアを推進、組織および施設内のケアの質の向上を図る。
  - 求人活動
    - 無料・有料求人媒体や紹介業者などの活用、また職員や地域の方への働きかけをすすめ、従業員の確保に努める。
    - 定期的な業務の見直し、トラブルへの早期対応を心がけ、働きやすい職場を目指し、離職率の低下を図る。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - WEB研修に加え、外部研修への参加も再開する。
      - 介護部のマネージャー、トレーナーの育成を推進し、ラダー体制の確立を目指す。

        - 環境の整備
            - 感染対策の継続による安心した生活の提供を行う。
            - 適正な勤怠管理と時間外労働の削減に努める。
        - 改修工事
            - ナースコール設備の改修
            - PAS（気中負荷開閉器）、高圧電流設備遮断機の改修

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
    - 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	88.7%	98.0%（＋9.3%）
平均要介護度	4.1	4.2（＋0.1）
単価（人・日）	13,000円	13,100円（＋100円）

    - ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	84.0%	90.0%（＋6.0%）
平均要介護度	3.0	3.2（＋0.2）
単価（人・日）	11,180円	11,300円（＋120円）

- 実現するための取り組み
    - 稼働率
        - 入所申込者、待機者の確保が第一優先。グループホーム本郷と合同で、営業活動を推進する。
        - 健康管理、感染対策の徹底により、不必要な入院退所を発生させないように努める。
        - 特養待機者の方についても短期入所サービスで積極的に受け入れ、円滑に入所に繋げる。
    - 平均要介護度
        - 平均要介護度は、入所は4.0～4.2、短期は3.0～3.2を想定。
        - 定期的に介護度の見直しおよび変更申請、居宅ケアマネへの働きかけを行い、介護負担に見合った報酬獲得を目指す。
    - 加算について
        - 引き続き、入所は日常生活継続支援加算Iを、短期はサービス提供体制強化加算Iを継続算定。

        - 看護師の人員確保を行い、看護体制加算、栄養マネジメント強化加算の再算定を目指す。
    - その他取り組み
        - コロナ禍で疎遠になった家族との関係再構築をすすめる。

グループホーム本郷【定員：18名】

- 事業計画の概要
    - 経営
        - 稼働率の改善
            - 97%以上を目標とする。
            - コロナウイルス感染症等の施設内感染を予防する事で感染症による稼働率低下を防止する。
            - 地域の医療機関や介護施設との関係を強くして効率の良い入退去支援を行う。
        - 地域支援および地域交流
            - 引き続き地域唯一のグループホームとして、地域の生活を支える重要な社会資源として運営する。
            - 地域の行事や会議に関わるなどして地域交流を推進しながら地域の将来像策定に関与していく。
            - 地域で最も困っているご家庭からの入居の受入。
            - アフターコロナを見据え、地域と施設の新しい関係性を構築していく。
    - サービスの質
        - 活き活き計画2023
            - 「活き活きするぞ！」をモットーに、職員もご利用者も日々を活き活きと生活できる運動を実施。
            - ご利用者と職員が一緒となって行う事を増やし、ご利用者と職員の一体感を演出。
            - 職員の業務に対する意識を受け身から攻めの姿勢に転換して、業務一つ一つの質の向上を図る。
    - 人材育成、職場環境の整備
        - 職員の能力開発と意識の向上
            - 外部研修や法人内研修への積極的な職員派遣
            - 幅広い意見の交換と改善
            - 個別の成長目標設定
            - 責任の明確化

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	91.2%	97.0%（＋5.8%）
平均要介護度	2.2	2.5（＋0.3）
単価（人・日）	11,734円	11,830円（＋96円）

  - 実現するための取り組み
    - 稼働率
      - 入院時の迅速な退去判断と新規の受け入れ。
      - 併設施設をはじめとした他施設との協力関係を堅持して稼働率維持を図る。
    - 平均要介護度
      - 平均要介護度は2.5～3.0程度を想定。
    - 加算について
      - 算定可能加算の取りこぼしの無い様に対応。
      - 医療連携体制加算について、現在算定できていないが単位数も大きくサービスの向上に直結するため、正看護師の配置が可能な状況になると早急に再算定を行う。
    - その他取り組み
      - 職員の高齢化による能力低下に対して、適切な人員配置及び業務指示を行い、事業所の質の維持を図る。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名　ショート-10名】

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名　ショート-10名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善
      - 入所系サービスは100%、ショートステイは90%を必達目標とする。
      - 地域医療機関との連携体制確立し、入退所連携・情報共有システムを確立し入退院による稼働率変動を最小限にする。
      - 体調不良の兆候を早期発見・早期治療の体制づくりを行う。
      - 感染対策徹底、および策定したBCPを用い、実践訓練を行い災害による運営被害を最小限にする。
    - 経営分析と戦略策定
      - 毎月の請求内容の確認及び加算の算定状況チェックにより、基準の確認や上位加算へのチャレンジを評価し、算定漏れを防ぐ。
      - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
      - 物価高騰による影響を電力削減目標を達成し軽減する。
    - 地域貢献活動の充実
      - 地域自治体との協助体制の構築。介護予防通信の発信と地域健康教室を開催し介護サービスの知識・技術を地域に付与する。
      - 事業所、法人として地域包括システムへの参画。
      - 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築。
  - サービスの質
    - 介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進（LIFEのフィードバックの活用）
    - 多職種連携の強化と協働ができる体制を推進し利用者の重度化防止の取組を行う。
    - ユニットケアを実施する介護職員が生活相談員に帯同し利用者・家族の意思決定支援の充実を図る。
    - 利用者のIADLに応えらえる生活環境の見直しを行う
      - 睡眠を妨げない排泄介助の導入
      - 行事食やADL低下後も見た目にこだわった食事提供の提案
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 新卒職員に対するOJT研修体系の確立
      - 無資格者への認知症介護基礎研修受講

            - 外国人職員（3号技能実習生）の介護国家資格受験に向けた教育環境の整備
            - 病院・施設間の職員交換研修
        - 災害対策マニュアル類の整備、周知、訓練の徹底
        - 修繕・修理・新規導入の評価および実施による安全な職場環境の構築

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
    - 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	98.5%	100%（＋1.5%）
平均要介護度	3.9	4.0（＋0.1）
単価（人・日）	15,153円	15,203円（＋50円）

    - ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	74.9%	90%（＋15.1%）
平均要介護度	3.1	3.2（＋0.1）
単価（人・日）	15,167円	15,187円（＋20円）

- 実現するための取り組み
    - 稼働率
        - 入院者数の減少
            - 毎週1回多職種運営会議実施。体調不良者の共有・ADL低下兆候に対する専門職の介入を強化する。
            - 看護師特定行為の実施　早期発見・早期治療の実施
            - QI指標評価を活用し入退所動向を把握する。
        - 地域営業強化
            - 広報誌・ホームページでの自施設のアピール強化
            - 近隣医療機関へ入所説明・家族同意・入所調整を実施
            - 地域自治体との連携会議への参加
    - 平均要介護度
        - 認知機能低下やBPSDの方の受け入れも積極的に受けていく
        - 介護度の高い方を横浜市の順位に沿って受け入れを行う
        - 医療度の高い方を受けていく。

- 加算について
  - 特養
    - 経口維持加算（I）
    - ADL維持等加算（I）
    - 介護職員等ベースアップ等支援加算
    - 口腔衛生管理加算（II）
    - 褥瘡マネジメント加算（II）

- その他取り組み
  - 離職率改善の取組
    - 介護福祉士の新卒クリニカルラダー3年目の導入
    - 職員満足度アンケート実施
    - ストレスチェックにより産業医と連携したメンタルフォローの実施
    - 研究・学会への参加
    - 時間外勤務の改善　時間外労働人件費25%削減
    - 施設理念・方針の職員解釈のサポートと目的を持った働き方の支援
  - 利用者レクリエーションの充実
    - 毎月の誕生日会の開催
    - 季節ごとのレクリエーション計画・実施・評価・改善の実施
    - レクリエーション後、家族への写真提供を行い利用者の反応を家族と共有する。※家族との施設生活の情報共有を強化する
    - 性別・年齢・認知度に応じた個別レクリエーションの実施
  - 医療対応促進助成
    - 2022年度実績　　4,800,000円/年
    - 2023年度目標　　5,200,000円/年
    - 目標達成に向けた具体的な対策
      - 看護職員配置状況を維持し、医療処置が必要な方28%（全利用者中）を目標とし、医療処置が必要な利用差の積極的な受け入れを実施する。

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率・維持改善
      - 通所系は90%を必達目標とする。
      - 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する。
      - 登録者数48名から60名まで上げる。
  - サービスの質
    - ホスピタリティの充足
      - 多種多様なイベントの計画
      - おもてなしの接遇対応向上
      - 設えの改善　整理整頓
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
    - 接遇研修の実施
    - 感染対策マニュアル類の整備、周知、訓練の徹底
    - 営業技術の向上と新規地域事業所とのパイプの構築

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	76.1%	90.0%（＋13.9%）
平均要介護度	1.9	2.0（＋0.1）
単価（人・日）	9,402円	9,422円（＋20円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 地域営業所との連携と営業の実施。月40件の訪問営業実施
    - 総合事業への営業も行い、要介護への移行者を見越した利用案内を実施
    - 相談員が地域で開催される担当者会議への参加。月4件利用の促し実施
    - 空き状況を地域ケアマネの情報ツールに挙げて新規利用獲得を実施
  - 平均要介護度
    - 医療処置を要する方やBPSDのある方の受け入れも行い、要介護度の高い方の受け入れも行っていく

- 加算について
  - ADL維持等加算（I）
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算
  - 個別機能訓練加算（I）（II）
- その他取り組み
  - 施設内イベント企画実施
  - 施設庭園のOPEN、花壇の充実
  - 園芸を介した利用者参加型レクリエーションの実践
  - デイサービスの食事サービス強化
  - 「おもてなしデイサービス」を掲げた職員発信の質の見直し
  - 広報誌・ホームページでの自施設のアピール強化
  - 施設車の増加による利用地域の拡大

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名　ショート-20名】

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名　ショート-20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善
      - 入所系サービスは99%、ショートスティは98%、を必達目標とする。
        入所申込者の事前面談を迅速に行い、新規利用者様の獲得を目指す。
      - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
        近隣病院や老健、居宅事業所との密な連絡体制を確立していく。
    - 経営分析と戦略策定
      - 毎月の収支を把握し対策案を考案していく。
        月に一度の運営会議で収支関係の報告を行う。
        加算の状況と毎月の稼働率、改善策を検討し実行していく。
    - 地域貢献活動の充実
      - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
        - 近隣2ヶ所の団地の高齢者の買い物送迎サービスを行っていく。
        - 地域行事への参加
      - 事業所、法人として地域に貢献した福祉サービスの提供を継続していく。
      - 町田市災害時の二次避難施設として協定を締結し災害時には要介護者、障がい者の受入を実施。
  - サービスの質
    - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
      - 毎年行う第三者評価機関の利用者聞き取り調査を実施し、サービスの質の向上に努める。
      - 利用者の生活環境の見直しを行う。
      - 行事食やおやつレクなど栄養課と協力し毎月行っていく。
    - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施

- 無資格者への認知症介護基礎研修の受講推進
- 階層別研修の実施
- 教育専門担当職員の配置、ラダーの確立
- BCPの策定と訓練の実施
- 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
- 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
- 技能実習生の技術研修の実施

■ マニュアル類の整備、周知の徹底

■ 業務量の適切な管理と信頼関係を築ける環境の整備

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - ○ 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	98.3%	99.0%（＋0.7%）
平均要介護度	3.6	3.7（＋0.1）
単価（人・日）	14,583円	14,590円（＋7円）

  - ○ ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	88.3%	98.0%（＋9.7%）
平均要介護度	3.1	3.3（＋0.2）
単価（人・日）	14,610円	14,660円（＋50円）

- 実現するための取り組み
  - ○ 稼働率
    - ■ 常時入所待機者5名の確保。
      特養の入所待機者をショートスティのご利用を促し、すぐに入所へ切り替えられる体勢を整える。
  - ○ 平均要介護度
    - ■ 要介護度4と5の入所者を増やしていく。
    - ■ 胃瘻、透析の方、インスリンが必要な方など要介護度の高い方の受入を積極的に行う。要介護度が低い特例入所の申込もあるため、介護度が高い方と併用し入所に繋げていく。
  - ○ 加算について
    - ■ 経口維持加算I、II　目標25名

- その他取り組み
  - 各ユニット毎でのレクの充実（イベントの企画）
  - 行事の写真など定期的にご家族様へ写真送付
  - 感染予防に努め環境整備、教育の徹底
  - BCPマニュアルの整備、訓練の実施
  - 営業を絶やさない
  - 毎月の誕生会をフロアごとに実施できるよう企画

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率95%を目指し、平均利用者19～20名を目指す。
      総合事業は毎月6名程の利用を目指す。
      目標とする毎日登録者23名を継続していく。
    - 稼働率が安定した段階で定員の増加を考案していく。
  - サービスの質
    - ご自宅の生活に特化した生活リハビリメニュー。
    - 重度化の防止（個別リハビリ）
    - 個別機能訓練加算の算定を行っていく。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 安全に利用していただけるよう、感染防止対策の強化。
    - マニュアルの整備。
    - フロア内の整理整頓

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	94.8%	95.0%（＋0.2%）
平均要介護度	1.9	2.0（＋0.1）
単価（人・日）	9,406円	9,420円（＋14円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 曜日の斑をなくす。平均的な利用人数20名を目指す。
      居宅支援事業所への営業を欠かさず利用者様の情報、新規利用者様の獲得。

- 平均要介護度
  - 要介護度の見直しや介護度の高い方の受け入れ
- 加算について
  - 個別機能訓練加算の算定
  - ADL維持等加算の算定
- その他取り組み
  - 利用者様のリクエストが多い企画の実施。
  - 感染防止対策の強化
  - 園芸、野菜の収穫
  - 管理栄養士が関与し栄養スクリーニング加算（II）の算定を目標とする。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名　ショート-20名】

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名　ショート-20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善
      - 入所系サービスは99%を必達目標とする。
      - 地域医療機関との連携を強化し、円滑な入退所の仕組みを構築する。
    - 経営分析と戦略策定
      - 毎月の請求状況を把握し、分析・対策する。
      - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
    - 地域貢献活動の充実
      - 地域ケアプラザおよび社会福祉協議会、近隣の高齢者施設と連携して、地域の高齢者の移動支援・生活支援をする。
      - 感染症・災害発生時であっても事業所として必要な介護サービスの提供を継続していく。
  - サービスの質
    - 多職種連携し、自立支援・重度化防止の取り組みを推進する。
    - 入居者様・ご家族様に配慮した面会ルールの整備
    - 日頃のケア方法や生活環境を見直し、質の向上を図る。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 感染症BCP計画に基づいた実践的研修の実施
      - 自然災害用BCP計画に基づいた実用的な災害訓練の実施
      - オンライン研修を活用し、研修参加の機会を増やす
      - 新入職員（特に無資格者）に対する研修の充実
      - ユニットリーダー候補の教育
      - 外国人人材受入れ後の対応(技能実習生・特定技能)
    - 設備・機器の自主点検を行い、安全な職場環境を整える

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	96.3%	99.0%（＋2.7%）
平均要介護度	4.0	4.0（±0）
単価（人・日）	15,079円	15,209円（＋130円）

  - ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	102.3%	102.5%（＋0.2%）
平均要介護度	2.8	2.9（＋0.1）
単価（人・日）	14,381円	14,471円（＋90円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 空床発生時の対応
      - 併設ショートステイに入所待機者を確保し、空床発生時すぐに入所できる体制を整える。また、ショートステイ利用者を空床利用で少しでも多く受入れる
      - 地域医療機関と連絡を密に取り、入院者の状況を常に把握しベッドコントロールへ繋げる
    - 地域への営業
      - 近隣医療機関および介護保健施設、居宅介護支援事業所へ定期的な訪問と連絡を行い、情報共有を図る
      - 施設ホームページの充実化を図り、宣伝強化
  - 平均要介護度
    - 重度認知症者、医療処置を要する在宅生活の継続が困難な方を受け入れていく
  - 加算について
    - ADL維持等加算（I）の算定
    - 排せつ支援加算の継続算定
    - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定

- その他取り組み
  - 職員の月間目標の設定
  - 快適な職場環境づくり
    - 各種委員会を中心としたイベントの企画
      - 園芸クラブ、音楽隊、運動部の実施

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持・改善
      - 通所系は必達目標90%とする
      - 感染症や災害発生時であっても、必要な介護サービスが提供できる体制づくり
  - サービスの質
    - 多職種連携し、自立支援・重度化防止の取り組みを推進する。
    - 利用者様の生活状況に合わせたサービスの提供・リハビリの実施
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 感染症BCP計画に基づいた実践的研修の実施
    - オンライン研修を活用し、研修参加の機会を増やす
    - 新入職員（特に無資格者）に対する研修の充実

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	80.1%	90.0%（＋9.9%）
平均要介護度	2.0	2.1（＋0.1）
単価（人・日）	9,632円	9,752円（＋120円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 居宅介護支援事業所と連絡を密に取る。
    - 登録者数を1日平均23名にする。また欠席者へ振替利用を促せるようなイベントを実施する。

  - 平均要介護度
    - 重度認知症者や医療処置を要する介護度の高い方も受入れていく。

- 加算について
  - サービス提供体制強化加算Iの算定
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定

- その他取り組み
  - 個別性のあるイベント・レクリエーションの実施
    - 特技や経験を活かしたイベントの実施
      - 短歌会、フラダンス、三線、バンド演奏会
  - 選択できるレクリエーションの実施
    - 運動系のレクと制作系のレクの並行実施
    - 利用者満足度調査より、要望の多かったレクリエーションの実施

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名　従来型-60名　ショート-20名】
グループホーム板橋【定員：18名】
ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】
大谷口地域包括センター（地域包括）

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名　従来型-60名　ショート-20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善
      - 入所系サービス（ユニット）は98.9%、（従来）は98%、（ショート）は92.0%を必達目標とする。
      - 医療体制を整え、入院者数の減少と入院者の退院再入所をスムーズに行い、稼働の維持に努める。
      - 即日、入所判定会議を開催しタイムロスを無くし入所をスムーズにする。
      - 営業活動の強化(特に老健、居宅介護支援事業所、病院との連携を強化する）
    - 経営分析と戦略策定
      - 毎月の収支を即時把握し、問題点の解決案を検討する。
      - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
      - 加算の取得状況を精査し、改善策を検討する。
    - 地域貢献活動の充実
      - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
      - 地域の防災活動に参加するとともに福祉避難所としての準備を行い災害時の受入を実施する。
  - サービスの質
    - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。CS活動を活発化しニーズの調査や第三者評価の実施による適切な評価を基にサービスの質の向上に努める。
    - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 実践に即した体験型研修の実施
      - 外部研修への積極的参加と資格取得の支援
        - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進
        - 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進
      - 接遇マナーの向上
      - ラダー導入による知識技術の向上に努める。
      - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立

        - 中途入職者研修の実施。グループ及び施設の理念を理解する。
    - マニュアル類の整備、周知の徹底
    - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
    - 入所(ユニット)

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	93.9%	98.0%（＋4.1%）
平均要介護度	3.7	3.8（＋0.1）
単価（人・日）	15,200円	15,300円（＋100円）

    - 入所(従来)

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	93.1%	99.0%（＋5.9%）
平均要介護度	3.8	3.9（＋0.1）
単価（人・日）	13,068円	13,250円（＋182円）

    - ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	66.7%	92.0%（＋25.3%）
平均要介護度	2.9	3.1（＋0.2）
単価（人・日）	15,804円	16,000円（＋196円）

- 実現するための取り組み
    - 稼働率
        - 協力医療機関との連携強化
            - 地域連携と連絡を取り退院の目途が立ちそうな方の情報共有を行い、入退所の予測を行いながらベッドコントロールを行う。

        - 待機者の確保
            - 常時5人の待機者を確保する。
                - 入所判定会議は即日行い、判定までの時間を短縮し、目標値までの待機者がいない場合は、上位者の面談を行う。
                - 施設待機者を2名以上確保していく。

            - 営業活動の継続
                - 病院、老健、居宅事業所等に通常営業とFAX営業を実施。
                - 病院を訪問し施設からの入院患者の状態を定期的に確認し退院の予測を立てる。
            - 入居者体調管理により入院者数の減少
                - 栄養評価や尿路感染、誤嚥性肺炎の予防に努め入院が必要となるリスクを未然に防ぐ。
                - 看護職員の特定行為看護師取得を目指す
    - 平均要介護度
        - 平均要介護度3.8以上を目指し医療依存度の高い利用者の積極的な受け入れを行う
            - 胃瘻、腸瘻、透析患者、インスリンの必要な利用者の受け入れ
    - 加算について
        - ADL維持等加算
        - サービス提供体制強化加算→日常生活継続支援加算
    - その他の取り組み
        - ご家族への情報提供
            - ケア板通信の充実、レクや日常生活でのフォト、職員からのメッセージカードを請求書発送時に送付する。
        - 看取りの実施と活動の質の向上（現在10症例実施)

グループホーム板橋【定員：18名】

- 事業計画の概要
    - 経営
        - 稼働率の向上と維持
        - 稼働率99%を目標とする。
    - サービスの質
        - 複合施設の強みの活用(包括支援センター、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士との連携相談)
    - 人材育成、職場環境の整備
        - 認知症スペシャリストの養成
        - 外部研修の参加と内部研修実施による養成。
        - 毎月勉強会開催
    - その他の取り組み
        - 看取りの実施と活動の質の向上(現在看取り4症例実施)

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	98.1%	99.0%（＋0.9%）
平均要介護度	2.7	2.9（＋0.2）
単価（人・日）	14,800円	14,800円（±0）

  - 実現するための取り組み
    - 稼働率
      - 待機の確保
        - 2名以上の待機者を確保する
        - 5日以内で入居案内を行う
    - 平均要介護度
      - 平均要介護度2.9以上を目指し、要介護度の高い利用者について積極的な受け入れを行う。
    - 加算について
      - 看取り介護加算の算定
      - サービス提供体制強化加算I(継続)
    - その他取り組み
      - 認知症ケア専門性の向上を積極的に行い、より多くの専門性が発揮できるグループホームを目指し、認知症ケアの質の向上を図る。
      - 認知症介護実践者研修・認知症介護実践者リーダー研修などの資格取得を進める。
      - 地域との交流を深め施設内でのクラブ活動や地域に外出する機会を設けご利用者様のニーズに合わせた地域との関係構築を図る。

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善

      ADLの評価を適切に行い退所時期の見極めを行い、次の入所を適切にコントロールする。
    - 経営分析と戦略策定
      - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
      - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
  - サービスの質
    - 趣味の充実を図る
      - レク活動の活性化（映画鑑賞会、お茶会）、サークル活動の実施（手芸など）を行う。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - 一般

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	97.7%	99.7%（＋2.0%）
単価（人・日）	3,836円	4,100円（＋264円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 満床を目標
      - 待機者の確保
        - 4名以上の待機者を確保する
        - 退所後5日以内に入室の案内を行う
        - 包括や居宅との情報の共有
  - その他取り組み
    - 利用者様のご意見・ご要望を伺うため、年2回（3月・9月）に懇親会を開き、ご家族とのコミュニケーションも大切にしながらニーズの調整する
    - クラブ活動、サークル活動の積極的に参加できるように働きかける

大谷口地域包括センター（地域包括）

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 収支バランスを踏まえて職員数を精査する。
      - 包括人員は7名体制を基準とし、収支バランスを考慮した経営を行う。
  - サービスの質
    - 近隣住民や居宅事業所、医療現場から信頼されるために、個々のスキルアップ（問題解決能力・事業内容の深識等）を図る。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 包括の事業を理解し、包括全職員が対応できるように区主催の研修に参加

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
ケアプラン数	3,600名	3,650名（＋50名）
平均要介護度	―	―
単価（人・月）	5,138円	5,138円（±0）

- 実現するための取り組み
  - 登録者数
    - 地域の人口動態は昨年とほぼ同様である為、ケアプラン数は昨年と同程度を予測する。新規相談を大切にし新規利用に繋げていく。
  - 委託件数
    - 委託件数が増加し1人当たりの抱えるプラン数が多くなっているため、業務の効率化と人員増員を図る。
  - その他取り組み
    - 民生委員及び町会をはじめとする地域の関係機関との連携強化に向けて顔の見える関係を構築する。
    - 包括次年度計画に基づき、各会議の開催を実施。
    - 予防事業の活発化。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名　ショート-18名】

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名　ショート-18名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、改善
      - 入所系サービスは98%を必達目標とする。
      - 申込後、区からリストが戻り次第、入所判定までを1週間以内に実施する。
      - 協力医療機関、地域医療連携室との連携強化を図り、スムーズな入退所の仕組みを構築し最適なベッドコントロールを行う。
      - 外部発信力の強化、営業ツール等の見直しを図り、効率的な営業活動から入所申込件数の増加へ繋げる。
      - 看護体制の強化及び低栄養リスクを未然に防ぐ取り組みにより、入院者数の減少につなげる。
    - 経営分析と戦略策定
      - 毎月の収支状況を定期的に各部署役職者と共有する。
      - 定期的に各部署からの課題を抽出し、稼働や支出状況の改善策を検討し策定、実行する。
    - 地域貢献活動の充実
      - 地域行事への参加を積極的に推進し、自治会との合同防災訓練、近隣の清掃活動を実施する等、地域との繋がりをより強固なものにすべく活動を継続する。
      - 事業継続計画(BCP)については必要に応じて更新をかける。発災時に福祉避難所として地域貢献できる体制づくりに努める。
  - サービスの質
    - 介護サービスの質の評価と科学的介護の取組推進をより強化する（LIFE）
    - コロナ禍での施設運営の経験を踏まえつつ、状況に応じた利用者のQOL向上へ向けた取組みを推進し、多職種協働に支えられたサービス提供体制の質の向上に繋げる。
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 実践に即した体験型研修の実施
      - 外部研修への積極的参加
      - 接遇マナーの向上
      - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体制の確立
      - 介護職員初任者研修の受講支援制度、実務者研修の自治体助成金の

活用等
        - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
    - 各種マニュアル類の整備、周知徹底
    - ハラスメントに関する相談窓口担当を設定、メンタルヘルス対策の一環で「心の健康づくり計画」、「職場復帰支援プログラム」の策定を進める。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
    - 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	96.0%	98.0%（＋2.0%）
平均要介護度	4.0	4.0（±0）
単価（人・日）	15,242円	15,400円（＋158円）

    - ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	99.1%	100.0%（＋0.9%）
平均要介護度	3.3	3.3（±0）
単価（人・日）	15,706円	16,200円（＋494円）

- 実現するための取り組み
    - 稼働率
        - 入院者数の減少
            - 介護課、医務課、栄養課が連携し低栄養リスクの早期発見、早期改善につなげる取り組みを継続し、入院者数の減少に努める。
        - 営業活動強化
            - 営業活動の強化目標として毎月40件以上の営業件数を目標とする。
            - 居宅支援事業所向けの営業ツールを見直し、外部発信力を高める。
            - 広報誌・ホームページでアピール強化すると共に地域の回覧板・掲示板等に施設情報を回覧・掲示する。
        - ショートステイ運営の質の向上
            - 接遇に関して職員相互で定期的にチェックできる仕組みを作り、利用者に安心してご利用いただける体制を整え、リピート率向上へ繋げる。

        - 待機者の確保
            - 満床時においては常時10名の待機を確保する。
    - 平均要介護度
        - 認知機能低下やBPSDの方の受け入れも積極的に進めていく。
    - 加算について
        - 栄養マネジメント強化加算の継続算定
        - 褥瘡マネジメント加算の継続算定
        - 排せつ支援加算の継続算定
        - 安全対策体制加算の継続算定
        - LIFEを活用した新規加算の継続算定
        - 介護職員等ベースアップ等支援加算の継続算定
    - その他取り組み
        - 地域との交流
            - 全国のお茶農家の方々とWEBで交流しながら地元のお茶やお茶菓子を楽しむ取り組み
            - 葛飾区のマルシェの商品をケアホーム葛飾で出店。利用者様にもお買い物をしていただく機会を作る。
            - 地域の神社や公園の清掃奉仕活動を行う。
        - BCP見直しにより、防災対策の強化
            - 利用者の生命と支援の維持、職員の生命、地域貢献を目的に策定
            - 形骸化させないよう防災委員を中心に職員を巻き込んで更新をかける。
        - 動物セラピー
            - ドッグトレーナーの管理の下、セラピードッグと利用者との触れ合いを通して癒しの時間を提供する。
        - 施設行事委員会を新設
            - コロナ禍の制限下で実施している季節行事・レクリエーション等について、今後を見据えて状況に適した形で実施できる体制整備を進める。
            - 季節行事・レクリエーション等の充実を図る。
            - 敷地内に農園を作り、利用者にも参加していただき季節の野菜や果物、花を育て収穫する。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名　ショート-20名】

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名　ショート-20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の目標
      - 特養100%・ショート90%を年間平均の必達目標とする。
      - 入所・短期入所生活介護ともに相談・依頼があれば迅速に対応し、受入体制を整えます
        - 申込み・相談があればすぐに対応を意識づけて実施を継続
      - 協力医療機関や近隣病院との地域連携との関係作りを図りスムーズな入退所の仕組みを構築する。
      - ベッドコントロールに携わる職員の連携を図るため毎日のミーティングを実施

  - 経営分析と戦略策定
    - 毎月の収支を把握し適正な運営を行う。
      - 各職種の適切な人員配置を把握し、過剰な人員配置にならないように配置調整を行う
    - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
      - 定期的に運営会議にて役職者と情報共有を図るとともに改善案を検討
  - 地域貢献活動の充実
    - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する
      - 神戸大学附属中学校等の地域との交流を図り関係性の構築を図る
    - コロナ後における地域貢献について、検討するとともに取り組みをHPや広報誌を活用し周知する
      - 事業所、法人として東灘区の地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく
        - 地域コミュニティと連携し様々な活動を推進する
        - 地域の自治体に出向き、介護予防教室を開催
        - 地域のボランティアの受入れを実施
  - サービスの質
    - 利用者最優先で、ケアホーム住吉の理念でもある笑顔で気持ちのいい挨拶を心がける。また職員の接遇面を良くするために研修や指導体制を構築する。
    - 個々の技術面のみならずチームとして一定基準以上のサービスを提供する

体制を確立する。

- ○ 人材育成、職場環境の整備
  - ■ 研修の実施
    - ● 実践に即した体験型研修の実施
      - ○ 体験型の研修を経験しフィードバックすることで様々な取り組みをブラッシュアップさせる
        - ■ 感染症・身体拘束・災害等々
    - ● 外部研修への積極的参加と資格取得の支援
      - ○ 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進
        - ■ 入職1年以内に完了する
      - ○ 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進
      - ○ 認知症介護研修の受講を推進
        - ■ 認知症実践、リーダー研修等
    - ● 接遇マナーの向上
      - ○ 接遇研修を実施し、ひとりひとりの意識づけと職員間での注意喚起できる体制を構築
    - ● 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
      - ○ ユニットリーダー、フロアリーダーを確立し組織として職員指導を進める
    - ● 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
  - ■ マニュアル類の整備、周知の徹底
    - ● 委員会・介護手法・感染症対策・看取り・事故防止等のマニュアルと指針について委員会を中心に適宜見直しを実施する
  - ■ 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備

- ● 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む
  - ○ 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	97.1%	100%（＋2.9%）
平均要介護度	3.7	3.9（＋0.2）
単価（人・日）	14,700円	14,900円（＋200円）

- ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	65.6%	90.0%（+24.4%）
平均要介護度	3.2	3.5（+0.3）
単価（人・日）	15,000円	15,300円（+300円）

- 実現するための取り組み
  - 特養稼働率
    - 目標達成に向けた具体的な方策
      - 入所申込件数を増やすために、毎月の営業を40件以上実施
      - 入所判定委員会は随時実施し、入所待機者は常時10名を待機
      - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築するとともに入所対応を継続する
      - 管理者、相談員、ケアマネと毎日のミーティングを実施し、稼働に関する現状把握及び対応を行う
    - 平均介護度
      - 今年度目標：3.9
        - 特養の入所要件の要介護3以上となっているが、基本的に介護度が高い方（要介護4・5）を優先的に受け入れを実施
  - 加算について
    - 日常生活継続支援加算の算定継続
      - 日常生活継続支援加算の算定継続できるように、新規入所者にかかる算定根拠を理解し進める
        - 算定を継続できるよう要介護度4,5の方の受入れを優先的に実施する
        - 要介護度の割合で要件を満たせない場合、日常生活自立度III以上の割合での算定も同時に確認する
    - 排せつ支援加算の算定継続
      - 入所時等に排泄状況の評価等を実施し多職種連携を図る
    - 安全対策体制加算の算定継続
      - 事故防止委員会の委員長及び委員会職員に算定に必要なリスクマネジメント研修を受講する
    - 夜間職員配置加算III及びIVの算定継続
      - 毎日、夜勤看護師の配置もしくは喀痰吸引等の実施ができる介護職員を配置する
      - 喀痰吸引等の介護職員に指導できるよう、看護師が必要な研修を受

講する

- ■ LIFEを活用した加算の算定継続
  - ● LIFEへの登録と厚労省に提出が必要なデータを「ほのぼの」で記録管理し加算算定を進める

- ○ ショート稼働率
  - ■ 目標達成に向けた具体的な方策
    - ● LS利用者　10名確保を目標
      - ○ 入所待機者をLS待機で案内し、LS利用者を確保する
    - ● 緊急ショートの受け入れ
      - ○ 緊急ショートの依頼は基本的に受け入れる
    - ● 利用者様の満足度を高める
      - ○ 利用者ニーズの高い、リハビリ・口腔ケアを専門職種が定期的に実施
      - ○ 毎月・毎日のレクリエーションを計画し実施

- ○ 加算算定
  - ■ 看護体制加算III及びIVの算定継続
    - ● 中重度受入要件の条件を達成する
      - ○ 要介護3以上の入所待機者を一定数以上受入れる
  - ■ 夜間職員配置加算III及びIVの算定継続
    - ● 毎日、夜勤看護師の配置もしくは喀痰吸引等の実施ができる介護職員を配置する
    - ● 喀痰吸引等の介護職員に指導できるよう、看護師が必要な研修を受講する
  - ■ サービス提供体制強化加算（I）の算定
    - ● 介護福祉士の割合（80%）以上になるように職員配置を実施

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率100%を目標とする。
    - 営業活動を積極的に行い待機者を10名以上確保する。
    - 協力医療機関や関係機関との情報共有を高め入退居を円滑に行う。
    - 重度者の入居受け入れ対応ができるよう協力医療機関・訪問看護ステーションとの24時間の連携を行う。
    - 職員一人一人が感染予防を心掛けながら経費の削減節水・節電を徹底する。

  - サービスの質
    - 入居者様・ご家族様一人一人の思いを取り入れた個別ケアを職員で話し合い実施していく。
    - 感染対策を考えた個別レクリエーションや施設内外の行事の充実を図る。
    - 入居者様・ご家族様からの相談や苦情への迅速・丁寧な対応を行う。

  - 人材育成・職場環境の整備
    - 無資格者への認知症基礎研修の受講・資格取得への支援。
    - e-ラーニングを使用した研修
    - 外部研修やWeB会議を利用した研修への参加
    - 職員同士が話し合える意見交換の場を作る

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	95.4%	100%（＋4.6%）
平均要介護度	2.7	3.2（＋0.5）
単価（人・日）	12,470円	12,525円（＋55円）

○　実現するための取り組み

■　稼働率

- 協力医療機関・訪問看護ステーションとの連携強化により
  入居者様の状態を把握し体調の変化があれば早期対応を行う。
- 空室を失くすため定期的に協力機関の病院・地域連携室のケアマネ・入居待ちのご家族様と定期的に連絡を取り退居から新規入居までの期間の短縮を図る。
- 営業活動を行い待機者の確保に繋げる。

■　平均要介護度

- 要介護度の高い方も安心して入居できる体制を作り入居申込者を確保し要介護度の高い方も積極的に受け入れる。
- 状態に応じて介護度の見直し区分変更を申請する。

■　加算について

- サービス提供体制強化加算(I）の算定継続
  算定要件である介護福祉士70%以上又は勤続10年以上介護福祉士25%以上を維持できるように職場環境を整える。
- 生活機能向上連携加算II（リハビリテーション専門職と連携して個別機能訓練計画の進歩状況を3ヵ月ごとに1回以上評価し、必要に応じて計画・訓練内容等の見直しを行う）加算人数を増やす。
- 栄養管理体制加算の算定継続
  協力病院の管理栄養士協力にて継続して算定する。毎月1回の施設訪問にて職員への助言・勉強会を通してより良い食事の提供に努める。

■　その他取り組み

- ホームページの定期的な更新を行い外部の方に施設の取り組みを知っていただく。
- 感染対策を徹底したうえで、地域イベントへの参加・交流に取り組む。
- 感染対策を徹底したうえで、三年間実施出来なかった遠足などの外出行事を行い、入居者様に外出の楽しさを感じていただく。
- 入居者様のと家族様のつながりを絶たないよう、感染対策をしながら家族様には積極的に面会を行っていただく。また、遠方の家族様にはオンラインの面会の活用や手紙・電話での連絡を行う。

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率、85%を目標とする。
      - 登録者数、60名を目標に営業活動を行っていく。
      - 必要なものを見直し、無駄を省く等職員が経費削減を意識する。
      - グループ内の連携を行い、法人や各事業所に運営状況等が相談できる。

  - サービスの質
    - 利用者様・ご家族様のニーズを把握し、自立支援・相談・介護軽減に努める。
    - 中重度者の受け入れができる環境づくり・職員の知識向上・医療福祉の連携が取れるよう外部との連携強化を行う。
    - 地域の様々な活動（地域防災、町内会主催の研修等）に積極的に参加し、地域住民との交流を行っていく。
    - 新型コロナウイルスへの対応と終息後に向けての対応
      - 感染防止のマニュアル等の周知徹底を継続（濃厚接触者を作らない）
      - 自主点検を行い環境整備・清掃・消毒を継続
      - コロナ以前に行っていたレクリエーションを新様式で出来る事から取り入れていく
      - 機能訓練や社会性の維持を目的とした外出支援を新様式で行っていく
  - 人材育成、職場環境の整備
    - e-ラーニングを使用した勉強会・外部の研修（Web）に参加
    - 随時、業務の見直しや効率化を考えていく。
    - 体調不良時にお休みが出来る、気づいたことを素直に話し合える等、働きやすい環境や風通しの良い関係づくりを行う。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	75.0%	85.0%（＋10.0%）
平均要介護度	1.7	1.8（＋0.1）
単価（人・日）	8,000円	8,200円（＋200円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 居宅訪問やケアマネとの連絡を継続し、情報提供や情報収集を行っていく。
    - ケアマネとの連携強化を図り、紹介していただきやすい環境を作っていく。
    - 利用者様からの紹介者を体験・新規利用に結び付けていく。
    - 地域の町内会や民生委員等に広報活動を行い、地域の利用者を増やす。
    - 利用者様の状態変化やご家族様の声に合せて、利用曜日の追加等の提案をしていく。
    - 広報誌やホームページを定期的に更新し当デイサービスの魅力を発信していく。
  - 平均要介護度
    - 中重度者の受け入れを積極的に行い、平均要介護度を上げていく。

  - 加算について
    - 個別機能訓練I（イ）加算を落とさないよう、看護師も機能訓練指導員として業務にあたる。
    - サービス提供体制強化加算I（介護福祉士の割合70%以上を保持)
    - 科学的介護推進体制加算（利用者様のデータの提出とフィードバック情報を活用していく）算定継続
    - 入浴加算IIの算定件数を増やしていく。
    - 運動器機能訓練加算の算定継続
    - ADL維持等加算（算定継続/データの提出の継続）
    - 口腔・栄養スクリーニング加算の新規算定

  - その他取り組み
    - コロナ禍で自粛され引きこもりになっている方が、安心して利用できる感染対策の徹底した施設を目指し、利用者様を増やしていく。
    - 生活が豊かになるように利用者様の「したい活動」から「できる活動」を支援していく。
    - コロナ終息時には、ボランティア・外出支援・地域の文化祭等を再開し利用者様の社会的孤立を防ぎ、地域との繋がりを保つ。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

八万小規模多機能センター【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 2023年度の目標として100%を目指す。
    - 協力病院の地域連携室と連携を図り、早めの対応が出来るように努める。
    - 光熱費削減の為、職員1人1人が無駄を見つけて節電に繋げる。
  - サービスの質
    - 家族様に日頃の生活状況などの報告を定期的に行い、家族様との信頼関係を築き、家族様の協力も頂きなが ら、その人らしい安心した生活が送れるようなサービスの提供を行う。
    - 感染症対策を十分行い、入居者様の体調管理を行いつつ、毎日楽しく過ごせるようなサービスの提供を行う。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 新しく入職された職員が無資格の場合、基礎研修の受講をして頂く。さらに資格習得の支援を行い、質の向上を目指す。
    - グループ外の勉強会に参加したり、eラーニングでの勉強会を継続する。
    - 新しいパートさんも含め、 職員同士の交流を図る。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	96.2%	100.0%（＋3.8%）
平均要介護度	2.9	3.0（＋0.1）
単価（人・日）	12,522円	12,600円（＋78円）

  - 実現するための取り組み
    - 稼働率
      - 協力病院の地域連携室やグループ内の施設と常に連携を図り、早めの対応により空室が１日でも少なくなるよう努める。
      - グループ以外の居宅等との連携を強化する。
    - 平均要介護度
      - 在宅では生活が難しい要介護度の高い方の受入を積極的に行う。
      - 状態に応じて、早めの区分変更の確認を行う。

        - 加算について
            - 生活機能向上連携加算の対象となる方を増やす。
            - サービス提供体制強化加算（I）算定継続
                - 勤続年数10年以上の介護福祉士は53%、全体の介護福祉士の割合が81%と昨年よりさらに増加。
        - その他取り組み
            - 外部の方や、近隣の方に施設の事を知って頂けるようホームページを定期的に更新し、施設の認知度を上げたい。
            - 今年は家族会の開催も予定に組み込み、可能であれば県外の家族様にも参加して頂きたい。

八万小規模多機能センター【登録定員：29名】

- 事業計画の概要
    - 経営
        - 稼働率の安定
            - 常に90%以上の稼働率を保てるよう、地域包括支援センターや病院地域連携室、居宅支援事業所との連携を深めていく。
        - 無駄な光熱費の削減
            - LED電気に変更しているが、さらに、こまめな節電をおこない、無駄をなくしていく。
    - サービスの質
        - コロナ感染対策により制限のあった地域交流等を少しずつ回復させ、より地域に根付いた施設になり、利用者の方が地域の中で安心して在宅生活が送れるように支援を行う。
        - 職員本位の視線でなく、まず利用者様の想いをくみ取り、その想いに寄り添って一人一人に必要なサービスの提供を行う。
        - 利用者様のニーズを十分に把握し、通い・泊り・訪問と柔軟に組み合わせながら小規模ならではのサービス提供を行う。

    - 人材育成、職場環境の整備
        - 職員一人一人が仕事に自覚をもって取り組めるような目標設定を行うとともに、キャリアアップにつながる資格の取得や、研修受講を進めていく。
        - 仕事をする時、休む時のONとOFFをしっかり作れるよう職場の環境を整えていく。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
登録者数	26.0名	27.0 名（＋1名）
平均要介護度	1.9	2.0（＋0.1）
単価	4,373円	4,900円（＋527円）

- 実現するための取り組み
  - 登録者数
    - 27名（稼働率93%以上を確保）
      - 利用者のサービスのニーズの把握をして、通い・訪問・泊りのサービスを組み合わせながら在宅生活を継続させていく
  - 平均要介護度
    - 積極的に要介護３以上の利用者の方を受け入れていく。
    - 利用者の方の介護度が適正であるか確認し、必要な時は区分変更申請を行っていく
  - 加算について
    - 訪問体制強化加算：月200回以上の訪問を行い、1,000単位/月を落とさないようにする。
    - サービス提供体制強化加算（I）：介護福祉士の割合70%以上を確保し、引き続き介護福祉士受験資格のある職員が資格取得できるようバックアップをしていく。
  - 営業活動
    - 地域の病院の医療連携室、居宅介護支援事業所、有料老人ホームなどとの連携を密にし、小規模のサービスの特性や利便性などをアピールしていく。
    - 町内会活動に積極的に参加し、地域の中の施設であること、第２福祉避難施設であり緊急時には利用できることなども周知していく。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　那賀町鷲敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

高齢者事業

那賀町鷲敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の低下が続いているため営業による体験者・新規利用者の獲得できるよう利用者からの口コミ、介護支援事業所・地域住民からも認識してもらえるようにPR活動にも力を入れていき新規利用の獲得をし、稼働率を上げていく。

  - サービスの質
    - ミーティングや申し送りにて現在の利用者の生活環境を把握し、残存機能の低下防止ADLの向上と自立化を目指していく。
    - 利用者目線で考えデイへ来る楽しみを作る。
    - 地域の方と一緒にできるような取り組みを考える。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 無資格者への認知症介護基礎研修の受講
    - 月1回の勉強会による職員のスキルアップ
    - 仕事と家庭の両立がしやすいよう、働きやすい職場環境作り
    - 相談しやすい環境作り

  - 改修工事
    - 風呂場シャワー蛇口の修理

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	62.7%	70.6%（＋7.9%）
平均要介護度	1.5	1.8（＋0.3）
単価（人・日）	7,672円	7,839円（＋167円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 営業からの体験利用・新規利用者の獲得。
    - 地域性を生かし利用者や家族、地域住民からの口コミをしてもらえるようなレクレーションやイベントを考えて利用してもらう。

- ケアホームのホームページにデイの記事も載せて知ってもらう。
- インスタグラムと広報誌を活用する。
- 営業目標毎月20件、他職員も協力し目標達成する。

○ 平均要介護度
- 介護度が高い方でも、在宅での生活が継続できるよう積極的に利用してもらい、利用回数も増やしていく。

○ 加算について
- サービス提供体制強化加算（I）を引き続き算定可能
- 入浴介助加算（II）は、家族・ケアマネの理解をできるだけいただき人数を増やしていく。
- 個別機能訓練I、IIは引き続き算定、利用人数を増やしていく。
- ADL維持等加算を新たに算定。

○ その他取組
- 外出行事のお花見など利用者さんに楽しんでいただけるようなイベントを増やし、活性化につなげる。
- 利用者さんも職員も心待ちにしているボランティア様の来所ができるようにする。
- 地域の方（地元農家さんや隣のこども園）とのつながりも大切にして一緒にできるイベントも考え、鷺敷デイ楽しいな！いいところやな！と思ってもらえるようにする。
- 毎月の行事やイベントもデイ通信やホームページ・インスタグラムを活用し家族様や多くの方に知ってもらい一人でも多くの方に利用していただけるよう取り組み、色々な方法で鷺敷デイを知ってもらえるようにアピールをしていく。
- 利用者の得意分野を生かし、作品つくりや、利用時にやりがいとなることを増やしていく。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

平成在宅介護支援センター平田（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 2023年度は稼働率をキープさせるために体験者・新規利用者の獲得を口コミ宣伝を利用し、現利用者からの宣伝力を利用する
    - 営業実績を確実に25件回り、広報誌を利用して印象付ける
  - サービスの質
    - サービス提供するフロアをゆったりと過ごしていただけるようにスペースを分けて過ごしていただく。
    - 対応利用者数が各フロアとなるため、ゆったりとした時間を過ごしていただく
    - 年間行事を見直し、楽しみのあるイベントを発案する
    - レク以外の余暇時間の充実を図る
      - 創作活動の提供
        - フロアを彩る季節の飾り作りを手伝っていただく
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 生活相談員同等の介護職員の育成
      - 研修の参加
      - 他事業所とのやり取りによる接遇面
    - 月に1回職員会議を行い業務内容の見直し等話し合い、時間外労働をなくす
  - その他
    - 地域住民の安心と介護予防の拠点としても活動していけるように居宅と協力して相談対応に取り組む

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	91.3%	93.6%（＋2.3%）
平均要介護度	1.7	2.0（＋0.3）
単価（人・日）	8,299円	8,327円（＋28円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 93.6%を目標とし利用日の休みになればマイナスにならないように振替利用を確実に作る

        - 年間行事の見直しによる新たなイベントへの追加利用の声掛け
        - 全利用者の利用回数の見直し
    - 加算について
        - 個別機能訓練加算(II)を2023年度は対象者全員算定する
        - 個別機能訓練加算（I-2）を多く算定し、加算単価を上げる
    - その他取り組み
        - リハビリ部から提案いただいた体操をより多く取入れ、リハビリ的な体操をしっかり行うデイサービスとして他事業所に売り込む
        - 創作活動での手作業による指先の残存機能を伸ばす
        - 昨年度導入したウォーターベット型マッサージ器が加わったリラクゼーションの充実をアピールする

平成在宅介護支援センター平田（居宅介護支援事業所）

- 事業計画の概要
    - 経営
        - 要介護状態にある高齢者が、可能な限り自宅においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し支援を行います。
          要介護状態にある高齢者の置かれている環境等に応じ、適切な保健医療サービス及び福祉サービス、施設サービス等、多様な事業所との連携により、総合的かつ効果的に介護計画が提供できるよう配慮します。

    - サービスの質
        - 職員の資質向上のため、内部研修や外部研修に積極的に参加する機会を確保して知識・技術の習得をしていきます。
    - 人材育成、職場環境の整備
        - 同じグループの居宅介護支援事業所と常に連携を取り、事例検討会や研修会を行う事で多様な視点で対応策を導き、その状況改善に向けて行動できる人材育成をしていきます。
- 主な指標　　*2023年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
ケアプラン数	1,653件	1,683件（＋30件）
平均要介護度	1.9	2.2（＋0.3）
単価（人・月）	12,543円	12,770円（+227円）

- 実現するための取り組み
  - 登録者数
    - 地域包括支援センターや医療機関などと連携し新規利用者の獲得をめざします。
  - 平均要介護度
    - 身体状態に応じた要介護度ではない場合には積極的に区分変更申請を行うことで平均介護度を上げ可能な限り住み慣れた自宅で暮らせるよう支援します。
  - 加算について
    - 入退院時に医療機関との連携を密にとることで、スムーズに退院後の生活を見据えた支援が行われるなどのように円滑な在宅生活への移行を促進するため、取りこぼしがないよう情報提供していきます。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

平成ホームヘルパーステーション黒磯（訪問介護）

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率89%以上を目標とし、稼働率の上昇を目指す。
    - 営業を継続し、体験や新規の獲得に努める。
      - 空き状況を持参する。
      - 新規の事業所等へは、パンフレットを持参し施設へ来所してもらえるように声掛けを行う。
      - 体験や新規の利用者の送迎時は、事前に訪問した職員が迎えに行くなど安心して利用できるよう配慮する。
    - 節電や節水に心がけ経費削減を行う。
    - 地域のニーズに合うサービスの提供。
  - サービスの質
    - 利用者及び家族のニーズを把握し、在宅生活を支援する。
      - 個々の能力・身体状態に合わせたサービスを提供し、自身でできる事を増やし楽しみを持って頂く。
      - 家族の介護負担を軽減出来るように相談・援助を行う。
      - 残存能力が維持できるように支援を行う。
      - 1人暮らしで準備の難しい方等も、居室内介助等で不安なく利用できるよう支援する。
      - 本人の希望に併せて、利用時間を設定する等の利用に対する不安を解消する。
      - 日頃見る事の無い表情等、ご家族様にも見ていただけるように、写真等でご家族様にお渡しする。
      - 心疾患のあるご利用者様も多くなっている為AEDの設置を検討を行う。
    - 施設に来所するだけで、季節を感じられる飾りつけ等を行う。
      - 定期的に施設内の飾りつけを変更する。
      - 利用者にも協力してもらい楽しみを作る。
      - イベント時の特別食のメニューの見直しを行い、食事の楽しみを増やす。
    - 介護度の高い利用者の受け入れができる体制を整える。
      - 対応方法を周知し、サービスの一定化を図る。
      - 主治医や介護支援専門員との連携を図り、サービスの共有を図る。
      - 地域の連絡ツールを活用し、多職種との情報共有や連携を図る。

- 職員の技術向上。

○ 人材育成、職場環境の整備
  - 毎月の勉強会・職員会議の実施し、職員の知識・技術の向上。
  - 無資格者への認知症介護基礎研修の受講。
  - 定期的な業務内容の見直しを行い、職員の負担軽減や環境整備に努める。
  - 職員の身体的な負担軽減が出来るように、介助方法等の研修会の開催。
  - 相談しやすい環境を作る。

○ 改修工事
  - 一般浴室内にある使用不可の機械浴槽の撤去（2023年4月以降）

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	71.0%	89.0%（＋18.0%）
平均要介護度	1.9	1.9（±0）
単価（人・日）	8,462円	8,500円（＋38円）

- 実現するための取り組み

○ 稼働率
  - 実人数を80名
  - 体験から新規への獲得率90%以上

○ 平均要介護度
  - 胃瘻や導尿等医療面が必要な方でも受け入れていることを、居宅介護支援事業所に発信する。
  - 独居の方でも安心して利用できるよう、居室内介助等の声掛け

○ 加算について
  - 個別機能訓練加算I（ロ）
  - 個別機能訓練加算II
  - 口腔・栄養スクリーニング加算（I）（II）
  - 口腔機能向上加算
  - 科学的介護推進体制加算
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算

○ その他取り組み
  - 地域の保育園からの月一回の慰問を継続
  - あんま、足つぼ等のリフレクソロジーの提供

平成ホームヘルパーステーション黒磯（訪問介護）

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 延べ訪問件数月416件を目標とする。
    - 居宅や地域包括への営業。
    - 業務の改善、効率のよいシフトとルート作成に努める。
    - 人員の確保により、利用者の受け入れ体制を強化する。

  - サービスの質
    - 作業手順の標準化や、訪問時に収集する情報等、必要項目の明確化でヘルパーによるサービスのバラツキを無くす。
    - サービス提供前後の情報共有の徹底。
    - 利用者の状況の変化やニーズを的確に捉え、適切なサービスを提供する。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 月1回のヘルパー研修、個別研修の実施
    - 定期的に個別懇談の機会を設け、ヘルパー個々の状況に配慮したスケジュール作成。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	3,812名	4,996名（＋1,184名）
平均要介護度	1.9	2.1（＋0.2）
単価（人・日）	4,411円	4,187円（▲224円）

- 実現するための取り組み
  - 利用者の確保
    - 質の高いサービス提供に努め、利用者、居宅からの信頼を得る。
    - ケアマネージャとの連携を密にし、毎月空き状況を伝える。
      - 施設入所、長期入院の利用者が出た時は、迅速に営業をすすめる。
    - 人員確保と効率の良い訪問スケジュール作成に努め、新規依頼に確実に対応出来る体制を整える。
    - ヘルパー間の情報共有とアセスメントで、利用者の状態変化やニーズを察知し、ケアマネージャに訪問回数の増加やサービス内容変更等の提案を積極的に行い、サービス単価の増加に努める。

- 平均要介護度
  - ターミナルの利用者様の依頼なども積極的に受け入れ、訪問看護と連携しながら最後まで安心して在宅生活が送れるよう支援する。
- 加算について
  - 特定事業所加算IIの算定
  - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム鳴門（グループホーム）【定員：18名】
平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】
鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム鳴門（グループホーム）【定員：18名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 訪問や電話での営業活動を実施して待機者増加を図る
    - 待機者へ定期的に体調確認等の連絡を実施する
    - 地域活動への参加を行う
    - 経費削減（節電、節水、消耗品管理の徹底)
  - サービスの質
    - 入居者様や家族様からの意見や要望等に迅速に対応できる職員体制
    - 家庭的な雰囲気で安心して生活ができる環境づくり
    - 職員の意欲や質の向上
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 職員の知識、技術の向上
    - 研修に参加しやすい職場環境
    - 職員が相談しやすく働きやすい環境づくり
  - 改修工事
    - ナースコールの新規設置工事

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	99.3%	99.5%（＋0.2%）
平均要介護度	2.5	2.6（＋0.1）
単価（人・日）	12,176円	12,340円（＋164円）

  - 実現するための取り組み
    - 稼働率
      - 病院や居宅介護支援事業所との連携を行い、空床になった際にすぐに入所に繋がるようにして、空床日数を少しでも減らす
      - 問い合わせの連絡があればすぐに対応を行い、待機者数の増加に繋げる
      - 入居者様の体調変化があれば、早急に協力医療機関へ相談を行い対応していく
    - 平均要介護度

            - 入居者様の日々の身体状況を確認し、必要があれば区分変更をすみやかに行う

        - 加算について
            - 生活機能向上連携加算：算定割合を現在の33%から43%に増やす
            - サービス提供体制強化加算I：介護福祉士の割合を継続できるように、働きやすい職場環境を作り長年勤務者の増加を図る
    - その他取り組み
            - 外出や買い物の回数を増やして楽しみをもってもらう
            - 入居者様の希望に沿い、季節行事以外の催し物の企画
            - 壁画や作品作り等の季節に合った空間を作りや、園芸作業等を職員と一緒に行い、充実した生活が送れるように支援を行う
            - 介護相談員やボランティアの訪問受け入れ再開

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

- 事業計画の概要
    - 経営
        - 稼働率の向上、維持
            ・毎月80%以上、年間85%以上を目標とする。
            ・登録者数を55名まで上げる。
        - 経費削減
            ・節電、節水、節ガスや消耗品管理を徹底する。
            ・公共料金の値上がりや物価高騰の影響を職員も把握する。
    - サービスの質
        - 人員確保
        - 満足度の向上
            ・ADLの維持、向上、自立を目指す。
            ・外出やイベントなど特別な行事の開催を増やす。
            ・五感を刺激し心も頭も身体も活性するレクリエーションを充実させる。
            ・生活機能訓練の内容を検討する。
        - 職員の知識向上
            ・多職種の専門性を生かし連携を強化する。
            ・中重度要介護者を受け入れる。
    - 人材育成、職場環境の整備
        - 外部研修やweb研修へ参加する。
        - 定期的な業務の見直しを実施し、職員の負担軽減を図る。
        - 人員確保により時間外労働をなくし、働きやすい職場環境を作る。

- その他
  - コロナ2019などウイルス感染対策を継続しながら、イベントなど行事内容の充実を図る。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	79.3%	85.0%（＋5.7%）
平均要介護度	1.9	2.0（＋0.1）
単価（人・日）	7,698円	7,953円（＋255円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 医療機関や居宅介護支援事業所との連携を強化する。
    - 営業(月30件以上)を欠かさず、要望に応え、体験・新規利用へと繋げる。
    - 体験では活動を写真撮影し、ご家族様やケアマネに報告し獲得に繋げる。
    - キャンセルは出来るだけ近日中に振替日を予定するよう徹底する。
    - 鳴門市自立支援ケア会議へ積極的に出席し他の事業所との差別化を図る。
    - 地域活動や行事に参加し貢献する。
  - 平均要介護度
    - 重症度の高い短時間利用のニーズが多いため、積極的に受け入れる。
    - インスリン自己注射、胃瘻や導尿、ストーマ管理、ターミナル等医療面が必要な方も要相談で受け入れ可能だと医療機関や事業所に発信する。
  - 加算について
    - ADL維持等加算(I)：LIFEへのデータ提出を継続し、算定条件を達成する。
    - 生活機能向上連携加算：ご利用者様の30%→50%に算定できるように増やしていく。
    - 入浴介助加算(II)：ご家族様やケアマネにご理解していただき、人数を増やしていく。
  - その他取り組み
    - 3人目の百寿お祝い会を開催する。
    - 感染対策を継続しながら、外出行事やイベント、ボランティアなどの心が動くレクリエーションを企画する。
    - ホームページのブログ更新を週1回→2回にし、イベント活動以外の普段の様子なども掲載し、ご家族様やケアマネへの営業ツールとして活用する。

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 小規模の特色を活かした柔軟なサービス提供により、居宅サービスとの差別化を図る。
    - 登録者数を増やし、重度者の受け入れも積極的に行う。
    - 経費削減（節電、節水、ガス等）を徹底する。
  - サービスの質
    - 利用者様の心身の状況や意向等、個々の状態に応じて柔軟な支援を行う。社会との繋がりを持ち、住み慣れた地域での生活が続けられるように留意する。
    - 感染対策を継続し、利用者様に安心してサービスを利用していただけるようにする。
    - 外出行事や季節行事を開催し、活気や充実感のある時間を過ごせるようにする。
    - レクリエーションや生活リハビリを含む個々の状態に応じた活動を支援する。
    - 鳴門市地域ボランティアの受け入れにより、普段と違った活動で気分転換を図っていただく。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 全ての職員が知識向上に向けて必要な資格を取得を出来るようにする。
    - 職員の経験や習熟度等に応じて、意欲的に研修参加の機会を設ける。
    - 職員の経験や能力に応じた役割分担等により、やりがいを感じながら、責任を持って働けるようにする。また個々の勤務状況、ストレスや健康状態を見ながら、働きやすい職場環境を整える。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
登録者数	16名	24名（＋8名）
平均要介護度	2.1	2.3（＋0.2）
単価（人・月）	5,376円	5,694円（＋318円）

- 実現するための取り組み
  - 営業活動
    - 病院からの退院直後の在宅生活への支援を中心に医療機関との連携を強化する。
    - 併設の有料老人ホームと連携を図り、入居や見学のタイミングでサービスの案内をする。
    - 市内の中心拠点となる医療機関へ定期的に登録状況等の情報を共有し、対象者の受け入れを速やかに出来るようにする。
    - 市内医療機関のネットワーク内にて情報を共有していただく。
  - 平均要介護度
    - 定期的に介護度の見直しを行う。
    - 介護度2.3以上を目指す為、重度者（認知症・要介護3以上、医療的ケアが必要な方等）の積極的な受け入れを行う。
  - 加算について
    - 生活機能向上連携加算：定期的な評価を行い、確実に算定できるようにする。
    - サービス提供体制強化加算：介護福祉士の取得条件を満たす職員については、積極的に資格を取得してもらえるようにする。
  - その他取り組み
    - 感染対策を継続しながら、地域活動を再開していく。地域の方々との交流により、施設周辺の状況や課題を把握し、サポートが必要であれば、包括等関係機関との連携により支援を行っていく。
    - 鳴門市包括が主催する研修への参加を行い、各事業所との関係性を構築する。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：25名】

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：25名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の向上
      - 年間通して85%以上を目標とする。
      - 登録者数を50名から60名まで上げる。
      - 待機枠の確保。
    - 経費削減
  - サービスの質
    - 人員確保
    - 満足度の向上
      - 利用者一人一人への細かな対応。接遇の見直し。
      - 感染対策を講じた上でのレクリエーションの充実
      - 行事や屋外活動などの催しを開催
      - 個別機能訓練内容の検討
    - 職員への教育やマニュアルの見直し、周知徹底
    - 多職種との連携強化
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 外部研修やWEB研修参加
    - 定期的な業務の見直しを実施。職員の負担軽減や環境整備を図る。
    - 適正な人員確保により時間外労働をなくし離職率の減少を図る。
  - 改修工事
    - 電化製品や給湯器の経年劣化
    - 送迎車両の買替
  - その他
    - 緩和後の新型コロナウイルスの感染対策

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	82.3%	86.0%（＋3.7%）
平均要介護度	1.9	2.0（＋0.1）
単価（人・日）	7,659円	7,760円（＋101円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 協力医療機関、居宅介護支援事業所との連携強化
    - 併設施設との連携強化
    - 営業件数月40件の実施
    - ケアマネとの連携強化、随時訪問や連絡実施、情報の共有
    - 体験利用者の獲得率を100%となるようサービス改善
    - 他事業所との差別化
  - 平均要介護度
    - 認知症の方、医療必要度の高い方への受け入れ体制を整え、
      多様化したサービスの提供、業務効率改善、人員確保を図り、
      要介護度の高い方への受け入れを積極的に実施
    - 重症度の高い短時間利用のニーズがある為、積極的に受入れを実施
  - 加算について
    - ADL維持等加算算定に向けてデータ提出の継続
    - 入浴介助加算(II)の算定に向けて対象者の検討実施
      - 利用者、ケアマネへの説明や実施に向けての準備
    - 口腔・栄養スクリーニング加算(I)の対象者の拡充

  - その他取り組み
    - 利用者に選んで頂けるような企画やレクリエーション、接遇の向上実施
      - 定期的にサービス内容の検討、見直し、振り返りを行い、地域の中で一番良いと、居宅支援事業所や地域の方に口コミが広がるよう目指していく。
      - SNSの開設。SNSを利用した情報の発信を強化していく。
    - 屋外活動や買物支援、地域との交流や催しの再開

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持
      - 待機者の確保
      - 入退居者関係の方との連携
      - 入院中の状況共有
    - 入居期間の延長
      - 健康管理の徹底
      - 転倒防止
      - 自立支援
  - サービスの質
    - 満足度の向上
      - アンケートの実施
      - 施設の環境整備
      - 選択できる食事の提供
      - 季節感のある施設づくり
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 職員の精神的フォロー
      - 自粛生活によるストレスの軽減
      - 話しやすい関係性
    - 職員研修の充実
      - 定期的な研修
      - 日常的な感染症対策の確認

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	99.5%	99.5%(±0%)
単価（人・日）	2,717円	2,753円（＋36円）

- 実現するための取り組み
    - 稼働率
        - 待機者の確保
            - 営業件数月20件以上
            - 待機者へ月1回は状況連絡
        - 入退居者関係の方との連携
            - 空床期間が2週間以内
        - 入院中の状況共有
            - 入院時には、週1回状況確認
    - 入居期間の延長
        - 健康管理の徹底
            - 体調不良の早期発見、早期治療
        - 転倒防止
            - 環境整備、移動方法の検討
        - 自立支援
            - ストレングス視点に基づいた援助
    - その他の取り組み
        - 選択できる食事の提供
            - 月1回食べたいものを聞き取り、提供

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）

高齢者事業

訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）

- 事業計画の概要
  - 経営
    - アフターコロナにおける社会の変化に対応していく必要あり
      - マスク着用の有無、スタッフの勤務体制等柔軟に対応できる準備を整える
    - 稼働率の維持・向上
      - 看護
        - スタッフ一人あたり平均：4～5件/日（80～90件/月）のサービス提供を実施
      - リハビリ
        - スタッフ一人あたり平均：5～6件/日（100～110件/月）のサービス提供を実施
        - 看護師によるモニタリング時に、看護サービスの必要性や定期訪問すべき意義を見出し、可能な限り看護師での算定を提案及び実施していく
    - 業務効率の向上
      - 上記訪問件数に達するため、中長期的にスケジューリングの改善を実施し、効率良く訪問できるように調整していく
      - 「公明正大」をテーマに情報を開示・共有するベースを作成するとともに、どのスタッフも情報にアクセスできるようにすることで業務効率を向上させる
      - 管理者による「説明責任」とスタッフによる「質問責任」を掲げることにより、管理者だけの責任にならないようにし、チーム全体として業務効率をUPさせる仕組みにする
  - 訪問看護人員確保
    - 訪問看護スタッフが全体の6割以上になるよう事業所の体制を整えていく
      - 無料求人媒体・職員紹介制度の定期的な見直し及び再周知
    - 看護スタッフにあわせてリハビリスタッフの増員も検討していく
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 新入スタッフの研修体制整備
      - 研修スケジュール立案
        - 今後活用し適宜修正していく
      - 業務チェックシートを作成し、フィードバックできる体制を整える
    - 既存スタッフにも定期的な面談を実施

- 目的
  - 社会的マナーや業務内容・目標を盛り込んだチェックシートを作成
    - 訪問サービス含め、日常の事業所内業務においても、効率向上に向けて1人1人に気付きを促していく
- 頻度
  - 半期に1回実施

- 既存スタッフのニーズを捉える取り組み「ざつだん」を実施
  - 目的
    - 上記「面談」ではどうしても畏まる傾向にあるため、頻回に傾聴する場を設けることで、スタッフの本音を引き出す
    - モチベーションの維持及び確認
    - 些細な問題や疑問を早期に発見＆解決する手段として活用する
    - スタッフの意識改革
      - 管理者依存思考からの脱却
      - 各々が自立して業務を実施できるように調整していく
  - 頻度
    - 管理者：最低1ヶ月に1回（もしくは適宜）
    - 一般スタッフ：最低2ヶ月に1回

- サービスの質の向上
  - 管理者のみならず、空いた時間にスタッフ同士による同行訪問を実施
    - より多角的視点をもって利用者に対応できるようにするため
      - コメディカルが陥りやすいバイアスを取り除き、気付きを増やす目的
    - 同行訪問後は適宜協議・指導を実施し質を確保
  - 定期的なカンファレンスを実施
    - 月に1～2回、カンファレンスを実施し、情報共有及び多角的な視点をもってサービスを実施できる体制をとる

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	14,912名	13,404名（▲1,508名）
平均要介護度	2.7	2.7（±0.0）
単価（人・日）	4,470円	4,480円（＋10円）

※延べ人数を下方修正した理由について

- スタッフ減少に伴う利用者延べ人数減少

        - また、この機会にスタッフの知識・技術の基礎を修正・改善することでサービスの質の底上げを図り、来年度の収益UPに繋げることを目標にしているため
            - 上記が現在の重点課題
- 実現するための取り組み
    - 上記「人材育成・職場環境の整備」の徹底を目標として実施していく
        - 基盤整備とともに以下内容も実施
    - 人員確保
        - 看護人員を確保するための求人活動を実施
            - 無料・有料媒体の利用
            - 紹介制度・入職お祝い金制度を利用
                - 人員確保に伴い、利用者の受け皿の安定化を図る
    - 利用者の確保（特に看護）
        - 上記人材確保とともに、看護管理者含め看護スタッフにより積極的な営業を実施
            - 主治医・ケアマネージャーに対し月1回は必ず訪問し、利用者の状態報告実施及び情報共有を図る
            - 連携先として信頼を得ることで次の利用者紹介につなげる
    - その他取り組み
        - リーダー役を担えるスタッフの擁立
            - 適宜面談やざつだんを通して検討していく
        - スタッフ間・事業所内コミュニケーション機会の確保
            - 感染対策を徹底したうえで、スタッフ間でコミュニケーションをとれるようなオープンな環境・機会をつくる
                - 例）休憩室の構造変更、スタッフの交流機会の確保・企画・実施
        - 看護サービス算定増加に向けた取り組み実施
            - リハビリのみの利用者様へ看護師モニタリングの意義を見出し、本人、ご家族、ケアマネ、主治医に提案し、看護師訪問による算定を強化していく

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと小平（訪問看護）

ケアプランセンター　てとてと小平（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとてと小平（訪問看護）

- 経営
  - 登録率・稼働率の向上
    - 看護：1人1日あたり4名～5名を目標とする
    - リハビリ：1人1日あたり5名～6名を目標とする
      - ケアマネジャーや主治医、訪問看護事業所等との連携を密に図り、数ある訪問看護事業所の中から選ばれる事業所となるようする。
      - 病院や診療所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等への営業を強化し、利用者の獲得を目指す。
        - 訪問営業に加え、FAX営業にも力をいれていく。
      - 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が発生した場合でも業務が継続して行えるように務める。
  - 経営分析と戦略策定
    - 経理部と連携して毎月の収支の状況を確認し、増減収の原因を分析する。
    - てとてと事業会議や緑成会病院との運営会議等で、収益や人員配置についての経営分析と戦略策定を実施し、収益の安定化を図る。
  - 法人、グループ内での連携強化
    - てとてと事業会議での連携
      - 取得できる加算などを随時確認し、積極的に算定していく。
    - 緑成会病院と連携
      - 入院中にサービスの必要性を検討することで、利用者の獲得を目指す。
    - 整育園との連携
      - 小児の訪問枠を増加させていく
      - 整育園勤務の言語聴覚士の兼務も検討し、小児受け入れの幅を広げていく。
  - 地域貢献活動の充実
    - 行政から依頼のある地域リハビリテーション活動支援事業や地域ケア会議、訪問C等に積極的に参加することで、地域の状況や課題を把握し、社会基盤の整備に貢献する。
    - 地域で行われる連絡会や研修会等に積極的に参加し、地域の状況を把握する。
- サービスの質
  - 資格取得や外部研修への参加で日々自己研鑽を行い、利用者へ質の高いサービスを提供する。

- ○ 事業所内で年間研修計画を立て、看護・リハビリで必要な専門知識を継続して習得できるようにしていく。

- 人材育成、職場環境の整備
  - ○ 人材育成
    - ■ 看護
      - ● 学研メディカルサポート（e-ラーニング）を毎月受講し、知識習得に務める。
    - ■ リハビリ
      - ● クリニカルリハビリテーション（ジャーナル）に掲載されている論文を月2本以上閲読し、知識習得に務める。
    - ■ 看護・リハビリ共通
      - ● 外部研修への参加で日々自己研鑽を行う。
      - ● 事業所内で年間研修計画を立て、看護・リハビリで必要な専門知識を継続して習得できるようにしていく。
  - ○ 職場環境
    - ■ 全職員と定期的に面談し、現状確認や精神状況の把握に努め、必要があれば随時対策を立て、解決を図る。
    - ■ 働きやすい環境を作るため、職員1人あたりの業務量を把握し、必要があれば調整を実施する。
    - ■ 適切な休憩時間の確保をする。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	9,101名	10,766名（+ 1,665名）
平均要介護度	2.4	2.4（± 0）
単価（人・日）	5,640円	5,192円（- 448円）

- 実現するための取り組み
  - ○ 利用者の確保
    - ■ ケアマネジャーや主治医、訪問看護事業所等との連携を密に図り、数ある訪問看護事業所の中から選ばれる事業所となるようする。
    - ■ 病院や診療所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等への営業を強化し、利用者の獲得を目指す。
      訪問営業に加え、FAX営業にも力をいれていく。
    - ■ 緑成会病院と連携を図り、入院中にサービスの必要性を検討することで、利用者の獲得を目指す。

        - 整育園との連携を図り、小児の訪問枠を増加させていく。
          また、整育園の言語聴覚士の兼務も検討し、小児受け入れの幅を広げていく。
    - 加算について
        - サービス提供体制強化加算加算IIの取得
            - 2022年度で勤続年数をクリアできている為、2023年度より算定開始する予定。
        - その他取り組み
            - 感染症や災害時にも継続して業務が行えるよう、業務継続計画の策定を完了させる。
            - 高齢者虐待防止委員会を開始する。
                - 2022年度は準備委員会を実施。

ケアプランセンター　てとてと小平（居宅介護支援事業所）

- 経営
    - 登録率・稼働率の向上
        - 職員1名あたり35件以上を目標とする
    - 経営分析と戦略策定
        - 経理部と連携して毎月の収支の状況を確認し、増減収の原因を分析する。
        - てとてと事業会議や緑成会病院との運営会議等で、収益や人員配置についての経営分析と戦略策定を実施し、収益の安定化を図る。
    - 法人、グループ内での連携強化
        - てとてと事業会議及びグループ内居宅連絡会での連携
            - 取得できる加算などを随時確認し、積極的に算定していく。
        - 緑成会病院との連携
            - 入院中にサービスの必要性を検討することで、利用者の獲得を目指す。
    - 地域貢献活動の充実
        - 小平ケアマネ連絡会へ定期的に参加することで、地域の状況や課題を把握し、社会基盤の整備に貢献する。
- サービスの質
    - 利用者やその家族との連絡を適時とり、現在の状況や今後の希望等の把握に努め、最適な居宅計画を作成する。
    - 利用者最優先でのサービスを目指すとともに、付帯事業（看護、リハビリ）へのサービス振分を積極的に実施する。
- 人材育成、職場環境の整備看
    - 人材育成
        - 外部研修に積極的に参加し、自己研鑽を図る。

        - 毎月事業所内で勉強会を開催する。
        - 主任ケアマネ取得の促進をする。
    - 職場環境
        - 全職員と定期的に面談し、現状確認や精神状況の把握に努め、必要があれば随時対策を立て、解決を図る。
        - 働きやすい環境を作るため、職員1人あたりの業務量を把握し、必要があれば調整を実施する。
        - 適切な休憩時間の確保をする。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
ケアプラン数	855名	926名（+ 71名）
平均要介護度	2.2	2.4（± 0.2）
単価（人・月）	12,304円	12,553円（+ 249円）

- 実現するための取り組み
    - 登録者数の増加
        - 緑成会病院との連携を図り、入院中にサービスの必要性を検討することで、利用者の獲得を目指す。
        - 地域包括支援センターや病院、クリニックへの営業強化を図る。
    - 加算について
        - 入院時情報連携加算を積極的に算定できるように体制を整える。
        - 特定事業所加算IIIの取得を目標に、ケアマネの確保を検討する。

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）

ケアプランセンター　てとてと徳島（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）

- 経営
  - 稼働率の維持、向上
    - 新規利用者獲得に向けて、関わりのある主治医、ケアマネジャー、他事業所の訪問看護事業所との連携に努め、訪問件数の増加に努める。また、総合病院、一般病院、診療所、居宅介護支援事業所への営業を強化し、利用者の獲得を目指す
    - 新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症に対して、事業所内感染が発生しないよう、また発生した場合でも業務が継続して行えるように、日頃から感染予防対策、業務継続計画の管理を徹底し、一時的な訪問件数の低下予防に努める
  - 経営分析と戦略策定
    - てとてと事業会議、自事業所での管理者会議にて、収益増減の分析と対策に向けた戦略会議を実施する
    - 経理部と連携して毎月の収支の状況を確認し、増減収の理由を分析する
  - グループ内での連携強化
    - 後方支援病院である、博愛記念病院、徳島平成病院の看護部長、地域連携室職員と連携し、入院患者の情報収集、退院後の訪問サービスの検討を随時行い、退院後の在宅支援強化に努める
    - てとてと事業会議にて事業所間の情報共有、連携を行い、介護報酬関連やその他の事案に関して必要に応じて相談する
  - 地域貢献活動の充実
    - 地域ケア会議に積極的に参加し、地域高齢者に対する支援の充実、社会基盤の整備に貢献する
- サービスの質
  - 高度な処置を必要とする重症症例や介護度の高い利用者、難病やターミナルの利用者に対する看護、リハの知識と技術を身につけれるように、年間計画を通して研修を実施する
  - 職種ごとの専門分野に関する資格の取得、外部研修の受講に励み、知識、技術の研鑽に努める
- 人材育成、職場環境の整備
  - 研修の実施
    - 月に1度、eラーニング研修にて勉強会を受講
    - 月に1度、担当制にて実症例を交えながら症例検討会を開催
    - 訪問看護関連・また職種別専門分野の外部研修会へ積極的に参加

- 過剰な業務ストレスを蓄積しないように、適切な休憩時間の確保や、業務負担の調査に努める
- 感染対策備品を余分に蓄え、徹底した感染症予防対策に努める

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	18,163名	19,230名（＋1,067名）
平均要介護度	2.1	2.2（＋0.1）
単価（人・日）	5,151円	5,200円（＋49円）

- 実現するための取り組み
  - 利用者の確保
    - 精神科訪問看護、小児訪問看護の実績が少しずつ増加できているため、関連する病院、診療所の医師や地域連携員、また相談支援専門員などへの営業、連携に努め、外部の訪問看護事業所が受け入れれない症例を積極的に引き受けていく
    - 特定行為研修修了者の常勤看護師が1名在籍していることより、他の訪問看護事業所が対応困難である重度褥瘡、人工呼吸器管理、インスリン投与、輸液管理等の重度疾患の在宅療養者を積極的に受け入れていく
    - 前年同様、介護支援専門員、診療所医師、総合病院支援センターへの営業を強化し、末期癌、難病、ターミナル状態にある利用者を特に積極的に受け入れ強化していく
    - 自事業所間でも看護、リハの各々の既存利用者で互いのサービスの必要性を検討し、同じ利用者へ看護とリハで協同してサービス提供が出来るように検討する
  - 加算について
    - 前述の精神疾患、小児、末期癌、難病、ターミナル状態の利用者を多く獲得することで、緊急時訪問看護加算、特別管理加算、複数回訪問看護加算、長時間訪問看護加算が従来の算定数より多く算定できるようにする
  - その他取り組み
    - 職員の体調管理に努め、今後も感染症対策備品の確保、後方支援病院との連携にて、職員、利用者における感染対策に取り組んでいく

ケアプランセンター　てとてと徳島（居宅介護支援事業所）

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 稼働率の維持、向上
      - 職員1名あたり38名の担当数を担保する
    - 経営分析と戦略策定
      - てとてと事業会議、自事業所での管理者会議にて、収益増減の分析と対策に向けた戦略会議を実施する
      - 経理部と連携して毎月の収支の状況を確認し、増減収の理由を分析する
    - グループ内での連携強化
      - 後方支援病院である、博愛記念病院、徳島平成病院の看護部長、地域連携室職員と連携し、入院患者の情報収集、退院後の訪問サービスの検討を随時行い、退院後の在宅支援強化に努める
  - サービスの質
    - 毎月1回以上は、利用者及び家族への訪問、連絡を行い、在宅生活での不安や今後の希望を聴取し、柔軟にニーズへ対応できるような居宅計画の作成に努める
    - 常に新しい知識を取り入れ、利用者の在宅生活がより向上できるように取り組んでいく
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 月に1度、グループ内の他居宅事業所とともに症例検討会を開催
      - 月に1度、事業所内で勉強会を開催
      - 外部研修会への積極的な参加
      - 主任ケアマネの取得
    - 過剰な業務ストレスを蓄積しないように、適切な休憩時間の確保や、業務負担の調査に努める
    - ICT機器を導入し、書類業務の負担軽減に努める

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
ケアプラン数	800名	846名（＋46名）
平均要介護度	2.0	2.1（＋0.1）
単価（人・月）	12,096円	12,100円（＋4円）

- 実現するための取り組み
  - 登録者数の増加
    - 後方支援病院（博愛記念病院、徳島平成病院）と連携し、退院患者で介護保険サービスを新規利用する患者の担当を積極的に引き受けていく
    - 関わりのある主治医や他事業所職員、外部の総合病院、一般病院の地域連携室へ定期的に訪問を行い、各入院状況の情報収集、紹介へとつながるように連携に努める
    - 地域包括支援センターと連携し、要支援者が要介護者となった場合の担当を担えるようにする。また非要介護認定者でも難渋例等に関して相談を受けれる体制をとり、新規での要介護認定から担当を担えるようにする
  - 平均要介護度
    - 要介護度の高い重度疾患利用者の受け入れを積極的に行う
    - 重度疾患利用者に対応できるよう、日頃より自事業所の看護師、リハビリと連携しておき、様々な介護サービスの提案ができるように努める
  - 加算について
    - 特定事業所加算Ⅲを算定できるよう、主任ケアマネ1名の増員に向けて、取得研修会を引き続き受講する
    - 担当利用者の内、重度疾患、癌ターミナルの利用者を増やし、ターミナルケアマネジメント加算、緊急時等居宅カンファレンス加算の算定数増加に努める

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

障害者事業

ＯＵＣＨＩ　ＣＡＦＥ・ＫＩＴＣＨＥＮ（就労継続支援B型）【定員：20名】

ＯＵＣＨＩ　ＨＯＭＥ（共同生活援助）【定員：14名】

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

障害者事業

ＯＵＣＨＩ　ＣＡＦＥ・ＫＩＴＣＨＥＮ（就労継続支援B型）【定員：20名】

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 精神障害をもつ方を主な対象とする就労訓練施設として、利用者個々のニーズに合わせた様々なレベルの仕事を提供することで、利用者がやりがいや達成感を感じられるような支援を行っている。また、単に「仕事をする場所」というだけではなく、困ったことを気軽に相談することができるよう体制を整えている。
      利用者の「働きたい」という思いを第一に考え、短時間で少ない日数からでも利用可能とすることで、「これまで仕事の経験がない」という利用者も気負うことなく仕事に来られるようにしている。
      一般就労を目指す方には、就労移行支援事業所などの関係機関と連携して目標に向けた支援を行っている。

  - サービスの質の向上
    - 利用者との定期的な振り返りの実施
      - 仕事の状況や作業量、体調、本人を取り巻く状況などを個別にヒアリングする振り返りを定期的に行うで、利用者の状態や現状の評価を行い、それを日々の支援にフィードバックする。
    - 相談環境の充実
      - 利用の有無に関わらず、いつでも相談したり話したりできる施設であることを利用者に周知する。
      - 仕事中であっても、困ったことや不安なことなどがあればいつでも相談する時間を設ける。
    - 利用者の体調チェック
      - 仕事前の朝礼時に体調チェックを行い、その日の体調を利用者自身に発表してもらう。
      - 利用前に健康・身だしなみチェック、利用後には当日の体調や作業状況のチェックを行い、日常的に利用者との密接なコミュニケーションの機会を増やす。
    - 利用者同士の交流会を実施する
      - 毎月第2土曜日に「OUCHI交流会」を開催。利用者同士の交流の輪を広げ、利用者にとって安心できる自己表現の場となることを目指す。

  - 人材育成、職場環境の整備
    - 研修の実施
      - 虐待や権利擁護、防災等に関する研修
      - 社会資源や制度など入居者の支援に必要な知識に関する勉強会

        - 外部の研修への積極的な参加
    - 職場環境の改善
        - 月1回の職員面談の実施
        - チームとして入居者の支援を行っていくためのミーティングなど、風通しのよい環境の整備
        - 運営会議を開催し、職場での困りごとや課題の抽出とその解決を図っていく。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	82.0%	90.0%（＋8.0%）
単価（人・日）	8,200円	8,700円（＋500円）

- 実現するための取り組み
    - 稼働率
        - 利用者の通所の安定化
            - 利用者の休みの軽減
                - 体調不良などで休んだ利用者には電話連絡をして状況を把握。悩みごとなどある場合は傾聴し、不安をできるだけ取り除けるよう支援していく。
                - 日頃の支援を通じて利用者の不調の兆候等を把握し、不調時には早期に介入することで長引かないようにする。
            - 利用者への支援の充実
                - 職員の資質向上
                - 精神障害の特徴や関わり方、障害者の権利擁護・虐待防止などについての施設内研修を行う。また、施設内だけではなく東京都主催を含む外部の研修会等にも積極的に参加し、それぞれの職員が自身の資質向上に努める。
                - 職員間の情報共有
                - 毎日の夕礼でその日の利用者の様子等についての情報共有を行う。
                - 利用者の個別支援計画の内容について共有するミーティングを定期的に行う。
        - 利用者の利用日数の拡大
            - 利用者と定期的に面談をして作業や心身面の評価を行い、利用時間や曜日の拡大を図る。

- 就労支援
  - 一般就労への移行支援
    - 就労移行支援事業所やハローワークなどの関係機関と連携する。
    - 一般就労を目指す利用者に向けて、グループ内外の就労先の紹介、支援機関などの情報を必要に応じて提供する。
    - OUCHIの利用終了後も困ったことがあったら話を聞いたり相談にのれるようにサポートする。
- 大内病院との連携の強化
  - 利用者が地域で安心して生活ができるよう、大内病院や在宅部門と協力して包括的に支援する。

- 地域との交流を増大
  - 地域のフォーマル、インフォーマルな機関とつながり、利用者と地域の人たちと交流する機会を作る。
    - 足立区内で行われる行事への参加
    - 西新井地区の高齢者サロンの方々との交流
    - 地域の方と交流できるようなイベントの実施
    - CAFEやKITCHENの商品を使ったワークショップの開催

- 就労支援事業の拡充
  - 平均工賃の増額
    - デザートの提供
      - 大内病院精神科デイケア向けに、週5日デザートを提供し安定した工賃収入を確保する。
    - 商品の生産量の安定化
      - お中元やお歳暮を継続。それらを見越して安定した生産ができるよう、年間の生産計画を立てていく。
      - できるだけ多くのニーズに応えるために業務の効率化や利用者のスキルアップ支援を同時並行で行い、生産量の安定化を図る。
    - 商品の販路拡大・新商品の開発
      - 現在の取引先との関係を継続しつつ、外部とのコラボレート商品や新商品の開発をしながら、販路開拓を行う。
      - 足立区内でもOUCHIの商品を通じて地域の人たちと利用者が交流できるような販路先を作っていきたい。
      - 売店や高齢者施設向けの新商品などの開発を行い、さらなる販路拡大を図っていく。

- CAFEの売上向上
    - 季節ごとのメニューやOUCHIの商品を使ったCAFEメニューを提供する。
    - 新メニューなどの情報をSNSにアップし、積極的に宣伝を行う。
    - 職員、利用者ともに、明るくていねいな接客を心がけ、お客様に繰り返し来ていただけるようなCAFEを目指していく。

ＯＵＣＨＩ　ＨＯＭＥ（共同生活援助）【定員：14名】

- 事業計画の概要
    - 経営
        - 稼働率の維持
            - かりん、ＨＯＭＥともに稼働率100%の達成・維持を目標とする。
    - サービスの質の向上
        - 入居者の体調管理、活動支援
            - 通院先の医療機関、訪問看護、ACTなど、医療との情報共有を積極的に行い、入居者の体調、服薬管理などを行っていく。
            - デイケアや作業所などの日中活動先と必要に応じて情報共有を行い、場合によっては同行するなどして連携を図る。
        - イベントや行事の充実
            - 入院ではない環境で暮らすこと、仲間とともに暮らすことの楽しさを感じてもらうことを目的とする。
            - 行事を通して入居者同士のコミュニケーションの機会を増やし、入居者同士が支え合える関係性を構築する。
        - 入居者それぞれが退居先で自立した生活を送るための支援
            - GH入居中から退居後の生活を意識できるように、地域のルールに合わせてゴミ捨てなどのルールを設定する。
            - 退居後に利用できる社会資源を想定し、入居中からそれを意識した支援を行う。
    - 人材育成、職場環境の整備
        - 研修の実施
            - 虐待や権利擁護、防災等に関する研修
            - 社会資源や制度など入居者の支援に必要な知識に関する勉強会
            - 外部の研修への積極的な参加
        - 職場環境の改善
            - 月1回の職員面談の実施
            - チームとして入居者の支援を行っていくためのミーティングなど、

風通しのよい環境の整備
- 運営会議を開催し、職場での困りごとや課題の抽出とその解決を図っていく。

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	75.0%	100.0%（＋25.0%）
単価（人・日）	4,000円	4,000円（±0円）

- 実現するための取り組み
  - 稼働率
    - 日頃の支援を通じて入居者の些細な変化に気づき、それを職員間で共有することで、入居者の不調に対して早期に介入し、再入院の予防を図る。
    - 大内病院外来、地域連携室、デイケア等にリーフレットを配布し、対象となりそうな方に紹介してもらう。
    - 空室状況だけではなく、退居者が出る見込みの情報も含めて、大内病院と共有する。
    - 大内病院の入院患者さんでGH利用を検討できる方がいるか、地域連携室と定期的に情報共有ができる機会を設ける。
    - 年4回の広報誌を作成し、リーフレットとともに各関係機関に配布する広報活動を行う。
    - 広報活動や関係機関との情報共有を行うと同時に、入退居のスケジュールを管理し、退居による空室発生から新規入居までの期間を短くする。
- その他取り組み
  - CAFE・KITCHENが参加する地域のイベントにHOMEとしても参加し、より地域を意識した活動を行っていく。
  - 入居者のOUCHI交流会への参加を促し、職員も利用者も含めてOUCHIが一体感を感じられる施設となることを目指していく。

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

- 事業計画の概要
  - 経営
    - 精神障がい者の方が自らが望む場所で社会の一員として日常生活、または社会生活を営むことができるよう、解決すべき課題等を把握したうえで必

要な福祉サービスの利用の支援を行う。利用者の意思及び人格を尊重し、利用者や家族に寄り添い支援を行う。基幹相談支援センター、地域生活支援拠点事業所、その他関係機関と連携し、チームアプローチの支援を行う。

- ○ サービスの質の向上
  - ■ 利用者の生活状況、体調の把握
    モニタリング以外の月も利用者の状況を把握できるように可能な限りご自宅や事業所を訪問し充実した生活が送れるよう支援をする
  - ■ 関係先との情報共有
    利用者に何らかの問題が起きた場合は速やかに関連施設に情報を共有し問題解決に努める。
  - ■ 利用者のエンパワメント重視した相談支援
    利用者の思いや将来に向けた願いを受け止め、利用者自身の力を発揮できるような支援を常に心掛ける。
- ○ 人材の確保と育成
  - ■ より多くの方々の支援ができるよう相談支援員の人員増員も視野に入れ、人員が増えた際もサービスの質が担保できるよう同行訪問やケースカンファレンスなど定期的に行う。また、基幹相談支援センターや関連施設などの研修会や連絡会議にも積極的に参加し資質向上に努める。

- 主な指標
  - ○ モニタリングや計画書作成などの毎月の支援件数が35件を超えることを目標

	2022年度	2023年度 目標
月の支援者数	ー	35名
単価（人・月）	ー	15,677円

- 実現するための取り組み
  - ○ 新規利用者の獲得
    - ■ 新規開設から安定した運営ができるように利用者の早期獲得のためグループ施設との連携や関連施設への営業を定期的に実施する
  - ○ グループ施設との連携
    - ■ 大内病院の入院患者や在宅サービスの利用者より対象となる方の受入れや情報の共有などスムーズに行えるように密な連携体制を整える
  - ○ 基幹相談支援センターや地域生活支援拠点事業所などの関係機関との連携
    - ■ 利用者一人のニーズを地域のニーズと捉え、地域の自立支援協議会を地域課題解決のツールとして活用できるよう関係機関との連携していく

2023年 3月31日

2023年度　事業計画
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

- 事業計画の概要
  - 令和5年度の岩国市委託料　18,800,000円/年　予定
  - 常に公正と中立性を保ち、地域包括支援センターを運営する
  - 介護予防・自立支援の促進と高齢者の社会参加・地域活動の促進を図る
  - 地域包括ケアシステム構築に向けて地域や他機関と連携して業務に取り組む

- 主な指標　　*2022年度：2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
ケアプラン数	1,870名	1,880名（+10名）
平均要介護度（要支援）	1.7	1.7（±0）
単価（人・月）	4,380円	4,380円（±0）

- 実現するための取り組み
  - 登録者数
    - 事業対象者と要支援１はサービス卒業を目指すプランニングを継続する。
    - 自助、互助による取り組みを促し、介護予防・自立支援の促進を図る。
    - サービス終了後も状況把握を行い、必要時には早期介入を行う。

  - 平均要介護度
    - 岩国市では要支援1の総合事業利用期間が原則6か月、予防給付利用期間も1年間原則となった。その為、必要時変更申請が増えており、要支援2が増加傾向。要支援1も2も単価は同等。
  - 加算について
    - 初回加算：3,000円
    - 委託連携加算：3,000円（全て委託の居宅に支払い）
- その他の取り組み
  - 介護予防教室の開催
    - 教室開催後「通いの場」としての活動継続をフォローする。
  - 地域ケア会議の開催
    - 支援困難事例への地域ケア会議や地域全体での地域ケア会議を開催する。
  - 認知症対策の推進
    - 認知症サポーター養成講座の開催、はいかい高齢者等ＳＯＳネットワーク事業の捜索協力事業所の新規開拓を図る。

2023年3月31日

2023年度　事業計画書

社会福祉法人　平成記念会

サポートハウス　ココロネ住吉

- **2023年度の主な施策**
  1. 地域医療、地域福祉事業所等に広く広報を行うとともに、更なる連携を図り、利用者獲得に繋げる
  2. 短期入所利用者の信頼を得て、長期入所に繋げる
  3. 余暇活動等の社会参加のための外出を積極的に実施する
  4. 療育活動の充実を図る
  5. 事業所内に第三者の支援者（ボランティア等）を積極的に受け入れる

入院・外来

項目	目標	前年比	要点
医業利益	41百万円	＋605百万円	稼働率上昇のため
稼働率（入院）	49.1%	＋29.5%	
外来　　患者延数	11,970名	＋4,471名	患者数増加のため
患者数／日	49.3名	＋12.5名	

在宅サービス

項目	目標	前年比	要点
生活介護	30.0%	＋15.8%	利用率上昇のため
放課後等デイサービス	53.5%	＋28.8%	利用率上昇のため

投資計画

施工予定日	施設等	案件	投資金額
2023年10月頃	入所・通所	車イス搭載マイクロバス購入費	5百万円

1. 医業収支

※（　）の数値は前年比

	2022年度	2023年度 目標
医業収益	342百万円	913百万円（＋266.9%）
医業費用	906百万円	871百万円（▲96.1%）
医業利益	▲564百万円	41百万円（＋605百万円）

2. 入院部門

a. 全体：100床

i. 計画・施策

- 障害者施設等入院基本料　10対1（診療報酬）
- 療養介護（障害者総合支援法）
- 医療型障害児入所施設（児童福祉法）
- 短期入所サービス（障害者総合支援法）

- 長期入所者数の獲得に苦渋したため、昨年12月に1フロアへ統合した
- 2023年度には、入所者獲得により、再び2フロア運用に戻すことを計画している
- 具体的な活動は下記の通りとする
  - 地域医療、地域福祉事業所等に広く広報を行うとともに、更なる連携を図り、利用者獲得に繋げる
  - 短期入所利用者の信頼を得て、長期入所に繋げる
  - 余暇活動等の社会参加のための外出を積極的に実施する
  - 療育活動の充実を図る
  - 事業所内に第三者の支援者（ボランティア等）を積極的に受け入れる

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度 目標
稼働率	19.6%	49.1%（＋29.5%）
単価（人・日）	48,700円	48,700円（±0円）
入院収益	326百万円	874百万円（＋548百万円）

3. 外来部門

a. 全体

i. 計画・施策

- 地域医療機関への広報を継続的に行い、外来患者獲得に繋げる

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度 目標
外来患者延数※1	7,499名	11,970名（＋4,471名）
外来患者数／日※2	36.8名	49.3名（＋12.5名）
単価	7,535円	8,104円（＋569円）
収益	61百万円	97百万円（＋36百万円）

※1　ケアホーム住吉訪問診療・往診含　2022年度（2,134名）
※2　ケアホーム住吉訪問診療・往診含　2022年度（8.8名/日）

b. 診療科別

小児科

i. 計画・施策

- ○ 地域の特別支援学校、小学校等への広報を行い、患者獲得に繋げる

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度 目標
外来患者延数	680名	1,152名（＋472名）
外来患者数／日	2.8名	4.0名（＋1.2名）

リハビリテーション科

i. 計画・施策

- ○ 地域の療育センターなどでの待機者を優先的に受け入れる体制づくりを行う

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度 目標
外来患者延数	2,571名	3,600名（1,029名）
外来患者数／日	10.6名	12.5名（＋1.9名）

4. 在宅部門

a. 付帯事業

ココロネリビング（生活介護）【20名】

i. 計画・施策

- ○ 地域福祉事業所等と連携を密に行い、一貫した支援を行う
- ○ 医療的ケアの必要な障害者の積極的な受け入れを行う

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度 目標
利用者延数	575名	1,458名（＋883名）
利用者数／日	2.8名	6.0名（＋3.2名）
収益	9百万円	22百万円（＋13百万）

ココロネクラブ（放課後等デイサービス）【5名】

i. 計画・施策
   - ○ 支援学校等との連携を密に行い、一貫した療育支援を実施する
   - ○ 医療的ケア児の積極的な受け入れを行う

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度 目標
利用者延数	253名	650名（＋397名）
利用者数／日	1.2名	2.7名（＋1.5名）
収益	6百万円	16百万円（＋10百万）

5. 採用計画・人件費

i. 計画
   - ○ 入所者数の増加に伴い、看護師と介護福祉士を中心とした生活支援員の採用を進める
   - ○ 10月を目標に、稼働フロアを1フロアから2フロアに移行予定のため、2フロア必要な人員配置を9月までに採用する

	2023年度
新規採用数	21.0名
（内訳）　医師	1.0名
看護師	10.0名
介護福祉士	10.0名

ii. 人件費

	2022年度	2023年度 目標
職員総数（常勤換算）	152名	151名（▲1名）
人件費	618百万円	617百万円（▲1百万円）
人件費率	188.0%	68.1%（▲119.9%）

以上